岐阜大学
GIFU UNIVERSITY

国立大学法人東海国立大学機構

岐阜大学

大学概要 2025

GIFU UNIVERSITY

Contents

学長挨拶 01
岐阜大学の理念と目標 02
岐阜大学憲章 03
岐阜大学のミッション・ビジョンと戦略 04
戦略１：教育・人材育成 05
戦略２：研究・価値創造 06
戦略３：社会連携・産学連携 07
戦略４：国際展開 08
TOPICS：ネーミングライツ 09
岐阜大学の教育における3つの方針 10
大学組織 11
教育研究組織 12
共同教育研究支援施設・運営支援組織 16

教育　学ぶ岐阜大学

教育推進・学生支援機構 17
学生数 18
入学状況 20
学部卒業者数・進路状況 21
国家試験合格状況・教員採用状況 22
大学院修了者数・進路状況 23
学生支援施設 25
学生サークル活動 26

研究　究める岐阜大学

学術研究・産学官連携推進本部 27
連携拠点支援事業 28
特色ある研究の取り組み 30
科学研究費助成事業 32
岐阜大学発ベンチャー起業数の推移 32
共同研究・受託研究 33
発明届・ライセンス等取入 33

社会連携　貢献する岐阜大学

地域連携推進本部 34
地域協学センター 34
地方自治体との協定 35
公開講座 36
シンポジウム・フォーラム 36
市民大学講座 36
高大連携 36
環境への取り組み 37

国際交流

グローカル推進機構 38
留学生受入・派遣状況 39
学術交流協定締結大学等一覧 41
研究者受入・派遣状況 43
国際交流会館 43
日本語・日本文化教育センター 43
海外オフィス 43

組　織

学長・副学長等一覧 44
構成員数 46
予　算 47
寄附金 47
沿　革 48
歴代学長 49

キャンパス

建物配置図 50
土地・建物 52
所在地 53

学長挨拶

President's Message

岐阜大学は2020年4月に名古屋大学と我が国で最初に総合大学同士の法人統合を果たし，東海国立大学機構として多くの実績を上げつつあります。我が国の地域の中核大学の新たな在り方としての良いモデルとなるべく進化しているところです。

東海国立大学機構が掲げる「Make New Standards for the Public」というミッションを共有し，その上で「学び，究め，貢献する」という本学の理念のもと，ビジョンを「地域共創，特色ある研究，イノベーション，教育を戦略的に推進し，地域と人類の課題解決に貢献する『地域活性化の中核拠点』となる」と定め，世界を見据えた上で，ビジョンを実現するための戦略を策定いたしました。本学の強みである，「産業・まちづくり」，「ものづくり，食づくり」，「医療づくり」，「人づくり」の分野でステークホルダーとの共創のもと，地域社会への教育・研究・社会貢献などから生まれる成果が地域を変えていくこの好循環を，「ぎふのミ・ラ・イ・エ構想」（Migration，Laboratory，Innovation，Education）と名づけ，岐阜大学の価値創造のモデルとして位置づけました。

これらを実現するための施策としては，第一に両大学の強みを結集した，東海国立大学機構連携拠点支援事業の充実です。これは岐阜大学および名古屋大学がそれぞれ持つ強み，リソースなどを融合し，そのシナジー効果が期待できる先進的かつ挑戦的な取り組みで，現在6つの拠点が認定されています。

その中でも特筆すべき事柄としては，「東海国立大学機構・糖鎖生命コア研究拠点」の発展をあげることができます。糖鎖分野における世界トップレベルの研究拠点として，国家プロジェクトである大規模学術フロンティア促進事業「ヒューマングライコームプロジェクト」を担当し，2023年1月には糖鎖生命コア研究所岐阜研究棟が竣工いたしました。岐阜大学の誇りであります。また，「航空宇宙研究教育拠点」も多くの実績をあげ，岐阜県との連携のもと，航空宇宙産業を中心としたさまざまなものづくり企業に貢献できるサイバー・フィジカル・ファクトリーを実現するための研究開発を進めており，新たに展開枠の支援を受けるに至りました。「One Medicine創薬シーズ開発・育成研究教育拠点」は医学・獣医学・薬学による先進医療と創薬に，応用生物科学部・工学部による食・農・バイオエンジニアリングを加えた革新的なライフサイエンス拠点です。2023年1月にはOne Medicineトランスレーショナルリサーチセンター（COMIT）を立ち上げ，文部科学省の経営改革補助金による支援を受け，研究基盤の整備と地域一体型の臨床研究体制を整えています。一方，「健康医療ライフデザイン統合研究教育拠点」，「低温プラズマ総合科学研究拠点」に加えて，「量子フロンティア産業創出拠点」が認定されました。地域の中核大学の産学融合拠点の整備として，Tokai Open Innovation Complex岐阜サイトが2024年2月にオープンし，研究力の強化や産学連携の推進に弾みをつけています。カーボンニュートラルおよび気候・環境変動・環境対策もSDGs実現のために重要な課題です。社会課題を科学技術・イノベーションの発展で経済成長のエンジンへと押し上げていきます。

第二に強調したい点は，教育面での改革です。名古屋大学との連携で，全学教育科目の共同授業の実施，特に英語教育や数理データサイエンス・AI教育などの単位互換性授業が可能となりました。大学院博士課程学生への支援強化も充実いたしました。アカデミックセントラルの教育学修環境整備をさらに推進することにより，キャンパスDXを推進するデジタルユニバーシティ構想の実現も楽しみです。

2022年に文部科学省に採択された「ぎふ地域創発人材育成プログラム～地域活性化を目指した知的基盤の構築～」（SPARC事業）は，国立，公立，私立の大学が連携法人をつくって共通の教育プログラムをつくるとともに，地域の産官学金との連携を高め，地域に密着した学びを深めることと，地域を活性化する仕組みづくりを進めており，地域創生に貢献しています。

第三に挙げられる発展は，国際展開力です。地域における中核大学を目指すからこそ国際連携・国際交流を推進しなければならないと考えています。「世界で通用する人材こそ地域で活躍できる人材」であります。岐阜大学はすでに大学間では51大学と協定を締結していますが，今後はさらに増やしていきたいと考えています。また，国際化と教育研究力のさらなる向上を図るため，協定校のインド工科大学グワハティ校（IITG）およびマレーシア国民大学（UKM）と，ジョイント・ディグリープログラム（JDP）として4つの国際連携専攻を開設しています。今後は，ヨーロッパ，東南アジアの協定校とJDPの開設を検討するとともに，産学連携して地域まるごと国際交流を推進するプロジェクトも展開していきます。

自治体との連携もこれまで以上に進めていきますが，地域共創に貢献するためにも大学発のスタートアップ支援には一段と力を入れていきます。

岐阜大学は新しいビジョンや戦略を通じて，学生・教員・職員・ステークホルダーの皆様と共に，「地域と世界に開かれ，愛される岐阜大学」を実現し，社会変革の駆動力として成長し続ける経営体」に向けた変革と「持続可能な地域中核大学」としての発展を目指します。

岐阜大学長　吉田 和弘

平成18年6月制定
平成22年4月改定
平成28年4月改定
令和　2年4月改定
令和　4年4月改定

学び、
究め、
貢献する

［学章］

デザイン　元岐阜大学教授 坂井範一

1．岐阜大学の学章は鵜舟と篝火を意味する。
　篝火は学問を，舟は人類の幸福を意味するであろう。
1．陰陽二体の組み合わせは天地自然を意味する。
　総ての存在と活動，調和とバランスを意味するであろう。
1．黒とオレンジ色の組み合わせは情熱を意味する。
　また感性の豊かさと品位を意味するであろう。
1．単純化された形は現代の清潔感と活動性を意味する。
　それはまた時代の速度と知性を意味するであろう。

［シンボルマーク］

デザイン　宮川ヒロミ氏

創立60周年を迎えた2009年，デザインを広く公募し決定した。岐阜の地での豊かな教育研究活動が，日本全体，世界へと発信されていくこと，そして岐阜大学学生が自らの将来に矢のようにまっすぐすすむことを祈念してデザインされている。また，学章が力強い弓と融合し，岐阜大学の頭文字「Ｇ」を形作っている。

［理念］

清流の国と称され豊かな自然に恵まれた岐阜の地では，東西文化が接触する地理的条件や歴史を背景に多様な文化が育まれるなか，新たな技術・技能が創造され，脈々と伝承されてきた。国立大学法人東海国立大学機構・岐阜大学は，このような岐阜の地の特性を継承するとともに，洗練された「人が育つ場」の中で，社会を牽引し，未来を創造しうる「学び，究め，貢献する」人材の輩出を使命とする。
また，岐阜大学は，全ての学部・研究科が１つのキャンパスにある特徴と，同一法人を構成する名古屋大学との連携を教育・研究の両面に活かし，特に，高度な専門職業人の養成に主眼を置いた教育，教育の基盤としての質の高い研究，地域に根ざした国際化を展開する。さらに，これらの成果を地域還元することにより，「地域活性化の中核拠点」を目指す。

［目標］

１．教育

社会を牽引し，未来を創造するため，豊かな教養と「自ら学ぶ」姿勢を涵養し，高い倫理観とともに課題を探求し解決しうる能力をもった高度な専門職業人を養成する。このため，教育の質保証システムの充実，対面・遠隔授業のベストミックスや学修成果の可視化など教育学修環境の整備を推進する。

２．研究

個々の研究者の知的探求心に基づく学術研究の卓越性を幅広い分野において高めることにより，被引用度の高いジャーナル論文の増加を目指すとともに，特定の研究分野において，世界トップレベルの研究成果を得ることが期待できる研究センター群を形成し，人類や地域社会の直面する諸課題を解決する。

３．国際化

ジョイント・ディグリープログラム（JDP）はじめ地域に根ざした国際化を念頭に行う教育研究活動により，グローカル化を実現する。そのために，東海国立大学機構が持つ多様な人材やネットワークを活用し，組織的な支援体制やICTを活用した双方向の交流などを強化することで国際化を推進する。

４．社会貢献

東海地域の大学，大学共同利用機関，自治体，地元企業等との連携・協働をさらに深め，地域課題の解決をはじめ，教育，行政サービス等の向上による地域のブランド力の増進や産業の競争力向上に資する教育研究活動を推進するとともに，大学発ベンチャーの創出や産学協働拠点の形成を通じて，研究成果の社会実装による新たな価値を創造する。

5．地域医療連携

岐阜県における唯一の医学部附属病院として，地域医療を支え，住民の健康に寄与する役割を担う。特に，最先端の医療の提供，統合医療情報プラットフォームの構築，国際的に活躍する医療人材の育成などを通じて地域医療を先導し，社会に貢献する。

平成18年　6月制定
平成28年　6月改定
令和　2年　4月改定

学生憲章：「岐阜大学は学生に何を期待しているか」

学生の皆さん。岐阜大学で学ぶ数年間は，皆さんの人生において最も輝いている，それ故に最も大事な時間なのです。岐阜大学における学生生活は，将来の生き方を決める上でとても重要です。自ら進んで学問の基礎と高度な専門知識を学ぶと同時に，人間，自然，社会に対する豊かな感性と洞察力を磨いてください。大学の教職員は皆さんの期待に添うよう最善を尽くします。皆さんも努力してください。

- 本をたくさん読み，学んでいく上での土壌を作ろう。
- 文学と芸術を愛し，人間と自然への理解を深めよう。
- 専門職業人として，高度な専門知識を身につけよう。
- 自分の考えを論理的な文章にまとめ，発表できるようにしよう。
- 国際語である英語をマスターし，十分に意思疎通できる実力をつけよう。
- ICTの活用により，正しい情報の受信と発信ができるようにしよう。
- 長い人生を生きるための体力をつけ，健康を守ろう。

教員憲章：「岐阜大学の教員は何をすべきか」

岐阜大学は，「教育に軸足を置いた教育・研究大学」を理念としている。学生憲章にしたがい学生を教育し，優れた人材を社会に送り出すことが大学に課せられた最大の使命である。質の高い教育には，学問に対する情熱と質の高い研究の裏付けを必要とする。教員は独創的研究を進め，世界トップレベルの研究を目指す。教員は，教育者，研究者としての高度な倫理観が求められていることを常に意識しなければならない。日常生活，教育研究に取り組む姿，それらのすべてが学生に対する教育である。

- 教育に軸足を置いた教育・研究大学として，学生憲章に示す教育を実践する。
- 広い視野，深い専門知識，総合的な判断力と行動力をもった人材を育成する。
- 教育者，研究者としての倫理を常に自覚し，行動する。
- 目標を高くもち，世界トップレベルの研究を目指す。
- 長期的視点と広い視野で，独創的な研究を進める。
- それぞれの専門分野を通して，社会貢献に努める。

社会貢献憲章：「岐阜大学はどのように社会の要請と期待に応えるか」

法人化以前の大学は，『象牙の塔』という言葉に象徴されるように，社会から切り離された一段と高い存在のように思われていた。しかし，法人化後，大学はあらゆる面で社会から期待される存在になった。これを受けて，大学は積極的に社会に貢献しようと努めている。岐阜大学は，中部地域に立脚した国立の地方総合大学として，教育，研究，産業，医療，文化など，広く地域社会の要請と期待に応えられるよう努めなければならない。国際的にも，教育，研究面で貢献することが求められている。

- 優れた人材の育成が，大学に期待されている最大の社会貢献である。
- 地方総合大学の重要な役割は，地域社会との連携，協働である。
- 産官学間の連携により，地域産業の振興に貢献する。
- 地域住民，行政機関との協力により，地域の行政，経済，教育，文化の発展に貢献する。
- 附属病院は高度先進医療センターとして地域の医療に貢献する。
- 先進国，途上国と協力して国際的な社会問題の解決に貢献する。
- 海外の大学との連携および留学生教育を通して，国際社会に貢献する。

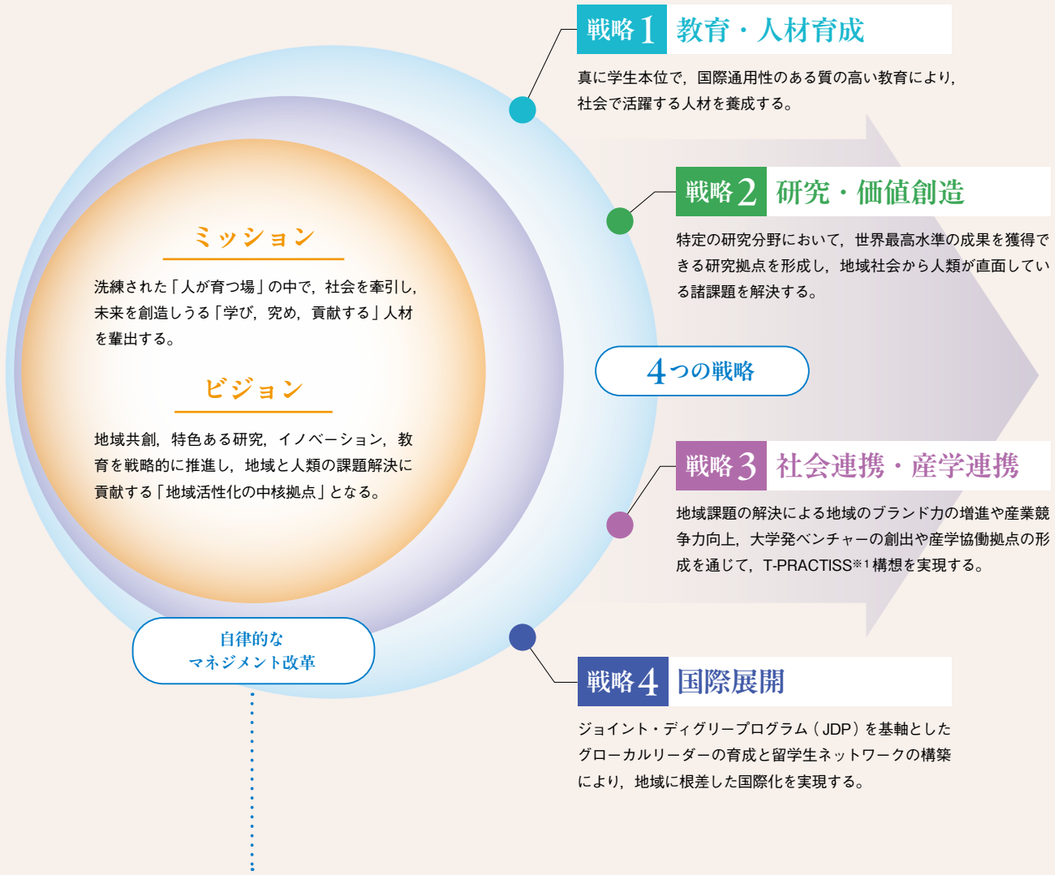
大学運営憲章：「期待に応える大学であるために何をすべきか」

教育，研究，社会貢献など大学に対する社会からの期待は大きい。中期目標，中期計画を策定し，それを確実に実行することが，社会の期待に応えるための基本となる。大学という，普通の社会一般の組織とは少なからず異なる独自の組織形態と価値観をもつ組織を，本来の目的に向かって進めるためには，学長のリーダーシップのもとに，教職員が問題意識を共有し，大学運営に当たることが重要である。特に，戦略性を重視し，個性ある大学像を築くことが必須条件である。国立大学法人をめぐる厳しい財政状況下で，大学の活性を保ち，本来の任務である教育，研究，社会貢献を進めるためには，経営と管理運営に戦略性が必要である。

- 中期目標，中期計画を確実に実行する。
- 戦略性を重視し，明確な方針と学長のリーダーシップのもとに大学運営にあたる。
- 環境に配慮した運営を行い，教育，研究，社会貢献に反映させる。
- 厳しい財政状況を乗り越えるため，明確な経営戦略のもとに運営する。
- 外部資金の獲得に努め，財政基盤を強化する。
- 情報の透明性と公開性を重視するとともに，情報を適正に取り扱い，効率的かつ合理的な運営に活かす。
- 教職員に優れた人材を採用し，その育成に努める。
- 学生の教学データ，教員の教育研究活動実績等は大学の財産であり，教育の質向上，研究の推進等に活用する。

日本トップクラスの地域の中核大学を目指して

岐阜大学は，総合知を活かした研究力を強化し，その強みをさらに伸ばすことで，
地域の中核大学としての役割を果たすことを目指し，中期のビジョンと４つの戦略を策定している。



戦略1　教育・人材育成

真に学生本位で，国際通用性のある質の高い教育により，社会で活躍する人材を養成する。

戦略2　研究・価値創造

特定の研究分野において，世界最高水準の成果を獲得できる研究拠点を形成し，地域社会から人類が直面している諸課題を解決する。

戦略3　社会連携・産学連携

地域課題の解決による地域のブランド力の増進や産業競争力向上，大学発ベンチャーの創出や産学協働拠点の形成を通じて，T-PRACTISS※1構想を実現する。

戦略4　国際展開

ジョイント・ディグリープログラム（JDP）を基軸としたグローカルリーダーの育成と留学生ネットワークの構築により，地域に根差した国際化を実現する。

学長のリーダーシップによる自律的なマネジメント改革

ガバナンス	一法人複数大学制の下，機構（法人）と構成大学間の連携強化，経営・教学の分離および監督・執行の分離体制の整備
資源配分	ポイント制による教員人件費管理，トータルバジェットでの資源配分，成果に基づく指標の活用など
地域貢献	地域ステークホルダーとの対話のもと，オープンイノベーション推進施設・設備や仕組みを整備など
財源の多様化	各種外部資金の獲得，クラウドファンディング，保有資産活用，研究成果活用促進への出資など
DEIB※2 宣言に基づく人事	多様性，公正性，包摂性を軸とした構成員の帰属性向上，優秀で多様な人材の確保など

※1 東海国立大学機構を中心とする大学連合体を起点として，東海地域の未来に向けた社会イノベーションに貢献するとともに，多様なステークホルダーとの緊密な協力・共創により，社会と人材・資金・知の好循環を形成し，大学機能の持続的強化を図る価値創造の流れを創出するモデル
T-PRACTISS：T＝THERS（Tokai National Higher Education and Research System）PRACTISS＝Project to Renovate Area Chubu into Tech Innovation Smart Society
※2 Diversity（多様性），Equity（公正性），Inclusion（包摂性）& Belonging（帰属性）

戦略1　教育・人材育成

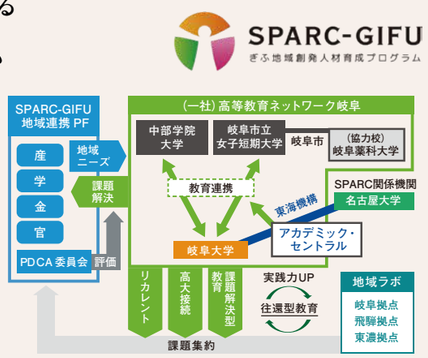
真に学生本位で，国際通用性のある質の高い教育により，社会で活躍する人材を養成する。

岐阜大学は，これまで進めてきた教育改革の成果をベースに，
2020年度以降は，法人統合のメリットを活かして，教育改革をさらに加速させている。

教育を軸に産学金官が連携し，地域変革の核となる
ぎふ地域創発人材育成プログラム SPARC-GIFU 進行中

岐阜大学は，文部科学省による「地域活性化人材育成事業～SPARC～」（2022年度採択）の事業責任大学として，「ぎふ地域創発人材育成プログラム～地域活性化を目指した知的基盤の確立～」事業を，中部学院大学，岐阜市立女子短期大学と連携して推進している。

このプログラムでは，３大学で「（一社）高等教育ネットワーク岐阜」を設立後，2024年３月28日に文部科学省から大学等連携推進法人として認定を受けたことで，３大学で連携開設科目の開講が可能となった。また，地域の産学金官各組織を結集したSPARCの活動を推進する「SPARC-GIFU地域連携プラットフォーム」を結成し，運営協議会においては地域が求める人材像やその資質・能力を定めている。同年３月13日には，これらの結成を記念し，事業の趣旨や目指すべき具体像などを社会に発信するシンポジウムを開催した。さらに岐阜，飛騨，東濃に地域ラボを設置し，地域社会をフィールドとした実践型PBL（Project Based Learning）や社会人向け教育「スゴ腕リーダー育成講座」を開講した。今後も地域社会との共生を念頭に，課題解決につながる活躍や新規事業の創業・起業を目指し，地域社会の発展に貢献する人材を育成していく。



2024年３月13日，第１回
SPARC-GIFUシンポジウム

岐阜大学の魅力を活かす
教育改革の推進

岐阜大学は，教育基盤のDX化，高大連携教育，理系女子応援プロジェクト，博士課程学生に対する研究に専念できる仕組みづくりなど，教育改革を推進している。

学生ステータスシステムの活用

宇宙工学講座
JAXA等見学ツアー

「TACT（TOKAI Academic Combination Tools）」の共同運用

名古屋大学との遠隔のオンライン講義やテストの共同実施に加え，テキストや資料，学生自身の学習記録の入手が容易になった。これによりコンテンツの相互利用による高い教育効果が期待されている。

学生ステータスシステム「crescendo」

学生ステータスシステム「crescendo」の運用を2023年度後学期から開始。教育成果や個人の能力と特性を見える化し，学修者本位の教育を支援すると同時に，就職活動時の自己PRツールなどに役立てることができるようになった。

航空宇宙人材の育成

岐阜県内の高校生を対象に，JAXAの協力を得て，岐阜県とともに工学部附属宇宙研究利用推進センターと地域協学センターによる特別プログラムを提供している。高大連携講座として基盤教育プログラム「宇宙工学講座」，実践プログラムとして，高校生が制作した人工衛星を打ち上げる「ぎふハイスクールサット（ＧＨＳ）」プログラムを実施している。人工衛星は2025年夏に打ち上げられ，その後の約１年間，高校生と大学生・院生が協力して管制業務を行う。

ぎふ理系はばたき応援プロジェクト

岐阜県内の小中高生，保護者，教員などを対象に，研究者が理系の魅力を伝えるとともに理系分野で活躍する女性のキャリアパスやロールモデルを提示することで理系進路選択を応援している。

次世代研究者挑戦的研究プログラム（SPRING）

メイク・ニュー・スタンダード次世代研究事業として，博士課程学生に対する経済的支援のみでなく，キャリア支援，他分野の研究者との交流促進，産業界や国際舞台への優秀な博士人材の輩出を目指している。2024年度には延べ70名の支援を実現した。

戦略2　研究・価値創造

特定の研究分野において，世界最高水準の成果を獲得できる研究拠点を形成し，
地域社会から人類が直面している諸課題を解決する。

**岐阜大学は，名古屋大学とのシナジーを活かした東海国立大学機構の連携拠点支援事業として，
人類課題の解決，地域創生に貢献する研究を推進している。**

生命の本質を追及する国際研究を展開
糖鎖生命コア研究所（iGCORE）

糖鎖（核酸，タンパク質と並ぶ第３の生命鎖）の機能を理解し，新しい生命原理を明らかにするとともに新たな生命原理を応用した医療の革新を目指している。

2023年に糖鎖生命コア研究所の岐阜研究棟が大学キャンパス内に完成し，糖鎖化学，イメージングなどを専門とする研究者が集まって，アンダーワンルーフのもと，分子レベルでの糖鎖研究を中心に活動している。また，名古屋大学の糖鎖生物・糖鎖医学の研究者らとともに，それぞれの強みを活かして，生命原理の解明や医療革新につながる基礎研究を推進している。

研究所は，若手研究者・大学院生の国際派遣（フランス，カナダ，台湾など）を実施するなど，国際的視点を持つ高度人材の育成にも尽力しており，その成果として，若手研究者・大学院生が国際学会で賞を授与されている。さらに，研究所に所属するゲラルデル特任教授は，リール大学（フランス）にも籍を置いており，そのリール大学との国際交流を基に，本学連合農学研究科で共同指導学位プログラムを2024年度から開始している。

東海地域で革新的な航空機産業技術と人材を創出
航空宇宙生産技術開発センター（IPTeCA）

日本の航空宇宙生産の約50%が集中する東海地域において，産学官が一体となり，航空宇宙産業の国際競争力を高めるために，人材育成や技術開発に取り組んでいる。

岐阜大学と名古屋大学は，航空機設計から製造，飛行試験までを網羅する，日本唯一のカリキュラムを構築しており，これまで学生，社会人併せて約150名が修了した。産業界と連携し，即戦力となるエンジニアを育成することで，航空宇宙産業の活性化に貢献している。また，高品質・多品種少量生産という航空宇宙産業特有の課題解決を目指し，大学と企業が共同で研究開発を進めている。これまでに８件の特許を取得しているほか，生産の効率化と品質向上を図り，最終的には実際の生産現場に成果を実装することで，航空宇宙産業全体の生産性向上を目指している。2025年３月には，米国ボーイング社，三菱重工業（株），川崎重工業（株），（株）ＳＵＢＡＲＵと「持続可能な航空機生産のためのコンソーシアム（CSAP）」を結成し，グローバルな研究開発体制を構築している。CSAPの研究テーマは新エネルギー・産業技術総合開発機構（NEDO）の先導研究に採択され，その先進性が評価されるとともに成果が期待されている。研究開発を通じて航空機産業の持続的な成長に貢献していく。

世界の創薬研究に変革をもたらす
One Medicineトランスレーショナルリサーチセンター（COMIT）

「ヒトと動物の疾病は共通」，すなわち「One Medicine」の視座にたち，医学ー獣医学の境界を越えた新たな学際領域を開拓している。医学，獣医学，薬学，工学などの研究者が分野横断的かつ国内外で施設横断的に連携し，有望な創薬シーズを高度に選別し，治験につなげることでヒトと動物の創薬研究を変革していく。

「One Medicine」の視座にたち国際的に我が国が後れをとる医薬品開発の成功率を高めるだけでなく，「Sharing Medicine（人獣共通医療学）」の実現を加速させている。さらに，岐阜大学大学院自然科学技術研究科のカリキュラムにおいて2024年度は平均受講者数58人／回（単位認定者数52人）であった「創薬リサーチマネジメント人材実践的育成プログラム」を本格的に実施することで，リサーチマネジメント担当者や創薬研究者などを輩出し，創薬研究人材不足の解消につなげていく。

戦略3　社会連携･産学連携

地域課題の解決による地域のブランド力の増進や産業競争力向上，
大学発ベンチャーの創出や産学協働拠点の形成を通じて，T-PRACTISS※構想を実現する。

**岐阜大学は，地域の産学連携オープンイノベーション拠点をベースに，
アカデミアと産業界の共創による研究開発の成果を社会実装，地域活性化につなげていく。**

地域に開かれた産学連携・社会連携の拠点
Tokai Open Innovation Complex 岐阜サイト
（施設愛称：OKB岐阜大学プラザ）

東海地域における社会課題の解決に取り組み，イノベーションを創出して地域の活性化を図るため，地域の産学連携オープンイノベーション拠点「Tokai Open Innovation Complex岐阜サイト」を，2024年２月にオープン。

Tokai Open Innovation Complex（TOIC）は，共同研究等による企業の活動拠点，スタートアップの活動拠点，新たなオープンイノベーションを創出する産学交流拠点としての役割を担っている。重点取組領域であるカーボンニュートラル，先端素材，デジタルトランスフォーメーションにおいては，地域のさまざまなステークホルダーとの協働により「新領域で活躍する研究者」との交流イベント等の企画・開催，岐阜大学協力会と名古屋大学協力会との連携，産学連携コーディネーターやURAによる支援，さらに大学発スタートアップの活動拠点の提供等を行っている。

TOIC岐阜サイトの特徴的な取り組みとしては，研究者と企業人との共創の場である「事業創造の現場で直面する課題とマネジメント」を実践できるリカレント教育プログラムや，地元金融機関である大垣共立銀行がOKB岐阜大学プラザ内に開設したオープンイノベーション拠点「OKB SCLAMB」において起業プログラムやメンター支援，ステークホルダーとの共創あるいはマッチングの場を提供など，地域の特徴を活かした産学連携を進めている。

岐阜大学発，スタートアップの創出・成長を支援する
アントレプレナーシップ教育の推進

岐阜大学は，学術研究･産学官連携推進本部の機能を強化し，岐阜大学発のスタートアップ創出支援・起業家育成のための専任支援人材の配置をはじめ，研究成果から生まれる起業シーズの発掘・育成と経営者とのマッチング促進，授業や起業部との連携を高めたアントレプレナーシップ教育の推進，起業ファンド申請支援など，多種多様な支援体制を構築している。

岐阜大学公認起業部の活躍

社会課題解決のための事業創出を担う起業家精神を持つ人材の育成・輩出，社会的インパクトのある学生スタートアップの創出，研究成果の社会展開，東海地域活性化/エコシステム構築への貢献を目指した活動が成果をあげている。

東海地域の起業家育成プロジェクト「Tongaliプログラム」に参画

岐阜大学は，Tongaliプログラムに幹事校として積極的に参画し，ピッチコンテスト，ビジネスコンテストなどにおいて受賞する優秀なチームを数多く輩出している。

全国最大級のビジネスコンテストをはじめ数々の主要コンテストで受賞

2021年	キャンパスベンチャーグランプリ全国大会 文部科学大臣賞
2022年	SDGs探究AWARDS2022 最優秀賞（全国１位）
2023年	ビジネス創造コンテスト 最優秀賞（全国1位）
2022年～2024年	Tongali ビジネスプランコンテスト ３年連続上位入賞（2022年 最優秀賞 2023年 優秀賞 2024年 優秀賞）

その他，数々のコンテストで上位入賞

※東海国立大学機構を中心とする大学連合体を起点として，東海地域の未来に向けた社会イノベーションに貢献するとともに，多様なステークホルダーとの緊密な協力・共創により，社会と人材・資金・知の好循環を形成し，大学機能の持続的強化を図る価値創造の流れを創出するモデル

戦略4　国際展開

ジョイント・ディグリープログラム（JDP）を基軸としたグローカルリーダーの育成と
留学生ネットワークの構築により，地域に根差した国際化を実現する。

岐阜大学は，地域に根ざした国際化と，成果の地域還元によりグローカル化を実現していく。

岐阜大学の強みを活かした国際展開

グローカル推進機構のダイナミックな取り組み

ジョイント・ディグリープログラム（JDP，国際連携専攻）とは，日本と海外，二つの大学の連名により学位を取得できるプログラムである。グローカル推進機構は，JDPを中心とした国際協働教育の推進や，学生の海外留学支援，本学で学ぶ外国人留学生の修学・生活支援などを通して国際化を推進している。

ヨーロッパ・アフリカ大陸

エジプト	2009	ベンハー大学
スペイン	2018	サラマンカ大学
ドイツ	2002	エルフルト大学
	2008	バイロイト大学
ハンガリー	2001	パンノン大学
フランス	2014	パリ・サクレー大学
	2020	リール大学
モロッコ	2024	ラバト国際大学
リトアニア	2010	カウナス工科大学
	2012	ヴィータウタス・マグヌス大学

アジア大陸・オセアニア

インド	2014	インド工科大学グワハティ校
	2018	アッサム大学
インドネシア	2001	アンダラス大学
	2006	ランポン大学
	2010	ボゴール農科大学
	2012	ガジャマダ大学
	2013	スブラス・マレット大学
	2021	ブラヴィジャヤ大学
	2022	バンドン工科大学
オーストラリア	1995	グリフィス大学
	2000	シドニー工科大学
韓　国	1992	ソウル科学技術大学校
	2010	高麗大学校
タ　イ	1999	カセサート大学
	2003	チェンマイ大学
	2005	キングモンクット工科大学トンブリ校
	2025	シーナカリンウィロート大学
中　国	1986	浙江大学
		広西大学
		電子科技大学
		江南大学
	2000	内蒙古農業大学
	2003	吉林大学
	2005	華僑大学
	2006	同済大学
	2007	内蒙古大学
	2011	内蒙古師範大学
バングラデシュ	2001	バングラデシュ農業大学
	2004	ダッカ大学
フィリピン	2018	マリアノ・マルコス州立大学
ベトナム	1998	ハノイ工科大学
	2018	フエ大学
マレーシア	2016	マレーシア国民大学

アメリカ大陸

アメリカ	1985	サンディエゴ州立大学
	1990	ノーザンケンタッキー大学
	1997	ユタ州立大学
	2020	南フロリダ大学
カナダ		マギル大学
	2017	アルバータ大学
		レイクヘッド大学
ブラジル	1984	カンピーナス大学

大学間学術交流協定大学

20ヶ国51大学

岐阜大学らしさを発揮した

JDP（国際連携専攻）の取り組み

岐阜大学は，全国大学JDP協議会の会長校を務め，外国の大学との国際教育連携を通じた教育内容の充実による国際競争力や魅力の向上，優秀な学生の計画的な受け入れ・派遣を通じた国際的な視野を持つ人材の育成などに寄与している。

岐阜大学は，国際化の推進と教育研究力のさらなる向上を図るため，2019年度から海外協定大学のインド工科大学グワハティ校（IITG），マレーシア国民大学（UKM）と協働し，4つの国際連携専攻を開設している。

相手国	相手大学	研究科名	分野／課程
インド	インド工科大学グワハティ校	自然科学技術研究科	応用生物科学／修士
		連合農学研究科	農学／博士
		工学研究科	工学／博士
マレーシア	マレーシア国民大学	工学研究科	工学／博士

国際協働教育を中軸とした地域国際化 ― ジョイント・ディグリーコンソーシアム

グローカル推進機構は，IITGとUKMとともに国際協働教育を通じて各大学が関連する各地域の企業をつなぐことで，ジョイント・ディグリー活動の地域・産業界への波及に取り組んでいます。

JDPの理念が生きる

インド工科大学グワハティ校（IITG）との交流

岐阜大学とIITGは2019年度からJDPを運用し，教育，研究面での交流と地域社会への貢献を果たしてきた。

2022年度からはJDPを中軸とした「グローカルJDPプラットフォーム形成による北東インド・東海圏における実践力のある高度人材育成」がスタートし，日・印の学生が実渡航やオンラインで各種交流プログラムに参加し理解を深めるとともに，北東インド・東海圏における実践力のある高度人材の育成を推進している。

岐阜大学とIITGは，2022年度以降，毎年JDPのシンポジウムをインド北東部アッサム州で開催。インド北東部の発展に向けた連携強化を確認した。また，本学とIITGとの交流が日本政府の海外向け広報動画にも採用され，230万回以上再生されている。

動画は
こちら

■ ネーミングライツ

岐阜大学の施設等の愛称を決定する権利である命名権を付与し，その対価として命名権料をいただく事業。地方公共団体等における公共施設でさかんに行われていたが，近年，国立大学法人でも導入が始まっている。

企業等においては，学生，教職員をはじめとする9千人以上の構成員を擁する岐阜大学において日常的に使用される愛称を設定することで，新たな広告宣伝効果を狙うことができる。

図書館1階アカデミック・コア「Sky ACADEMIC CORE」

取扱企業：Sky株式会社
付与期間：2023.10.1～2027.9.30

図書館1階
岐阜大学生が自主学習するための空間。自主ゼミや読書会，グループで宿題に取り組み，おしゃべりしながら勉強し，より深く，より広く学べる場所（スペース）である。

全学共通教育棟1階多目的ホール「IBIDEN Innovation Hub」

取扱企業：イビデン株式会社
付与期間：2024.4.1～2029.3.31

全学共通教育棟1階
学内最大の講義室で固定式の机，椅子，大型スクリーン，プロジェクター，最新音響設備を完備している。
学内イベント（就職関係）も各種開催される。

Tokai Open Innovation Complex 岐阜サイト「OKB岐阜大学プラザ」

取扱企業：株式会社大垣共立銀行
付与期間：2024.4.1～2034.3.31

共同研究等による企業の活動拠点，スタートアップの活動拠点，新たなオープンイノベーションを創成する産学交流拠点の3つの役割を担う拠点として，2023年度にTokai Open Innovation Complex 岐阜サイト（愛称：OKB岐阜大学プラザ）を整備した。名古屋大学に整備される，同機能を持つTokai Open Innovation Complex 名古屋サイトとも連携しながら，先端材料，カーボンニュートラル，デジタルトランスフォーメーションに関連する共同研究の組成や大学発スタートアップの創出支援を行うとともに，地域の企業や金融機関，アカデミア，行政機関等の多様なステークホルダーとの交流・対流により新たなイノベーションの創出を促進する。

■ 岐阜大学の教育における３つの方針（学部）

卒業認定・学位授与の方針
（ディプロマ・ポリシー）

岐阜大学は，全ての学部が１つのキャンパスにある特徴を教育・研究の両面に活かし，高度な専門職業人の養成に主眼を置いた教育，教育の基盤としての質の高い研究，地域に根ざした国際化を展開しています。岐阜大学では「学び，究め，貢献する」人材を社会に送り出すことを理念・目標に掲げ，以下の基盤的能力及び専門的能力を総合的に身に付けた人に学士の学位を授与します。

- 豊かな人間性を支える基盤的能力
  - ― 考える力（総合的判断力）
  - ― 伝える力（コミュニケーション力）
  - ― 進める力（自立的行動力）
- 専門職業人として必要な専門的能力
  - ― 社会に貢献できる専門的知識・技能
  - ― 深い見識と専門分野に立脚した見方・考え方
  - ― 広い教養と高い倫理観に基づく社会的責任感

教育課程編成・実施の方針
（カリキュラム・ポリシー）

岐阜大学は，基盤的能力及び専門的能力を備えた人材を育成するため，以下の方針に基づいて到達目標を明確にした体系的な教育課程を編成し，点検・評価を通じた不断の改革に取り組みつつ実施します。

- 豊かな人間性を支える基盤的能力を培う
- 自らの学習成果を適切に評価し，自主的な学習に責任をもって取り組む態度を培う
- 人文科学，社会科学，自然科学，岐阜学，スポーツ・健康科学，英語 / 言語と文化，社会人リテラシー及び数理・データサイエンス・AI の各分野にわたる教養教育を実施し，生涯学習の基礎を培う
- 専門分野を生かした見方・考え方を培う
- 社会的責任を果たすことができる倫理観を培う

入学者受入れの方針
（アドミッション・ポリシー）

岐阜大学は，自然豊かな１つのキャンパスで，幅広い分野において「学び，究め，貢献する」人材を育てます。大学での学修に必要な基礎知識と技能を備えており，次のような人の入学を期待しています。

- 知的好奇心にあふれ，自ら進んで学ぼうとする人
- さまざまな見方や論理的な考え方ができる人
- 相手の意見を聴き，自分の考えを伝えることができる人
- 積極的に課題を探求しようとする人
- これからの地域や国際社会で活躍したい人

上記の学力や意欲などを有する学生を選抜するために，各学部において，それぞれのディプロマ・ポリシーやカリキュラム・ポリシーを踏まえ，学力試験や小論文試験などにより，受験者を多面的・総合的に評価する大学入試を実施します。詳しくは，各学部等のアドミッション・ポリシーや学生募集要項をご覧ください。

■ 岐阜大学の教育における３つの方針（大学院）

修了認定・学位授与の方針
（ディプロマ・ポリシー）

岐阜大学大学院は，全ての研究科が１つのキャンパスにある特徴を教育・研究の両面に活かし，高度な専門職業人の養成に主眼を置いた教育，教育の基盤としての質の高い研究，地域に根ざした国際化を展開しています。岐阜大学では「学び，究め，貢献する」人材を社会に送り出すことを理念・目標に掲げ，以下の基盤的能力及び専門的能力を総合的に身につけた人に学位を授与します。

- 高度な専門職業人としての基盤的能力
  - ― 考える力（総合的判断力）
  - ― 伝える力（コミュニケーション力）
  - ― 進める力（自立的行動力）
- 高度な専門的能力
  - ― 社会に貢献できる高度な専門的知識・技能
  - ― 深い見識と専門分野に立脚した見方・考え方
  - ― 広い教養と高い倫理観に基づく社会的責任感

教育課程編成・実施の方針
（カリキュラム・ポリシー）

岐阜大学大学院は，基盤的能力及び専門的能力を備えた高度な専門職業人を養成するため，以下の方針に基づいて到達目標を明確にした体系的な教育課程を編成し，点検・評価を通じた不断の改革に取り組みつつ実施します。

- 社会に貢献できる高度な専門的知識・技能を培う
- 深い見識と専門分野に立脚した見方・考え方を培う
- 広い教養と高い倫理観に基づく社会的責任感を培う

入学者受入れの方針
（アドミッション・ポリシー）

岐阜大学大学院は，自然豊かな１つのキャンパスで，幅広い分野において「学び，究め，貢献する」人材を育てます。大学院での学修と研究に必要な基礎的専門知識と技能を備えており，次のような人の入学を期待しています。

- 知的好奇心にあふれ，自ら研究を行う意欲のある人
- 総合的かつ論理的にものごとを考えることができる人
- 広い教養と高い倫理観をもち，研究における社会的責任を認識している人
- これからの地域や国際社会でリーダーとして活躍したい人

上記の学力や意欲などを有する学生を選抜するために，各研究科において，それぞれのディプロマ・ポリシーやカリキュラム・ポリシーを踏まえ，学力試験や小論文試験などにより，受験者を多面的・総合的に評価する大学院入試を実施します。詳しくは，各研究科のアドミッション・ポリシーや学生募集要項をご覧ください。

東海国立大学機構
- 岐阜大学
  - 学長
  - 副学長
- 名古屋大学

■ 教育研究組織・学部等事務組織

学部等

- 教育学部
  - 附属小中学校
  - 附属特別支援教育センター
  - 附属学習協創開発研究センター
  - 教育学部事務部
- 地域科学部
  - 地域科学部事務部
- 医学部
  - 附属病院
  - 医学教育開発研究センター（医学教育共同利用拠点）
  - 附属地域医療医学センター
  - 附属量子医学イノベーションリサーチセンター
  - 医学系研究科・医学部事務部
- 工学部
  - 附属インフラマネジメント技術研究センター
  - 附属応用気象研究センター
  - 附属プラズマ応用研究センター
  - 附属宇宙研究利用推進センター
  - ものづくり技術教育支援センター
  - 工学部事務部
- 応用生物科学部
  - 附属岐阜フィールド科学教育研究センター
  - 附属動物病院
  - 附属野生動物管理学研究センター
  - 附属共同獣医学教育開発推進センター
  - 附属家畜衛生地域連携教育研究センター
  - 応用生物科学部事務部
- 社会システム経営学環
  - 社会システム経営学環事務部

大学院

- 教育学研究科
  - 心理教育相談室
- 地域科学研究科
- 医学系研究科
- 工学研究科
- 自然科学技術研究科
- 共同獣医学研究科
  - 岐阜大学
  - 鳥取大学
  - 附属獣医学教育研究開発推進センター
- 連合農学研究科
  - 岐阜大学
  - 静岡大学
- 連合創薬医療情報研究科
  - 岐阜大学
  - 岐阜薬科大学
- 社会システム経営学院

- 高等研究院
- 保健管理センター
- 糖鎖生命コア研究所

■ 運営支援組織

- 図書館
- 教育推進・学生支援機構
- 学術研究・産学官連携推進本部
- グローカル推進機構
- 情報連携推進本部
- 地域連携推進本部
- 男女共同参画推進室
- 環境対策室
- 災害対策室
- 広報企画室
- 評価室
- 施設マネジメント推進室
- 公正研究推進室
- 大学戦略室
- Development Office
- 障害者支援室

■ 事務局組織

東海国立大学機構事務局

事務局長

事務統括
- 総務部
  - 総務課
  - 広報課
  - 人事企画課
  - 人事労務課
- 経営企画部
  - 経営企画課
- 財務部
  - 財務課
  - 決算課
  - 資金管理課
  - 経理第一課
  - 経理第二課
- 教育戦略部
  - 教育戦略課
  - 教育基盤統括本部
- 研究戦略部
  - 研究企画課
  - 研究安全管理課
  - 産学官連携課
  - 研究事業課
- 施設統括部
  - 施設企画課
  - 資産課
  - 建築課
  - 設備課
  - 環境安全課
- 情報環境部
  - 情報企画課
  - 情報システム運用課
- 図書館情報部
  - 情報管理課
- 岐大病院事務部
  - 総務課
  - 経営管理課
  - 経営管理課施設管理グループ
  - 医事課
  - 医療支援課
- 名大病院事務部

岐阜大学教学事務部門
- 研究推進部
  - 研究推進課
  - 研究資金支援課
  - 研究組織支援課
- 学務部
  - 教務課
  - 教育連携課
  - 学生支援課
  - 入試課
  - 国際事業課
- 学術情報課
- 学部・研究科等事務部

■ 学部等

教育学部 1 課程 12 講座	学校教育教員養成課程	講　座	国語教育，社会科教育，数学教育，理科教育，音楽教育，美術教育，保健体育，技術教育，家政教育，英語教育，学校教育，特別支援教育
		附属施設	附属特別支援教育センター
			附属学習協創開発研究センター
			附属小中学校
地域科学部 2 学科 4 講座	地域政策学科	講　座	地域政策，地域環境
	地域文化学科		地域文化，地域構造
医　学　部 2 学科	医　学　科	学科目	生理学，生化学，人体構造学，神経構造機能学，病原体学，薬理・中毒学，病理学，循環器・呼吸器・腎尿路学，消化器・検査・血液腫瘍学，内分泌代謝学，脳神経学，成育学，生命倫理・法医学，臨床遺伝・臨床倫理，皮膚科学，免疫応答学，感覚器医学，運動器学，麻酔疼痛制御・救急災害，画像診断・放射線治療，精神医学，地域・産業保健学
	看 護 学 科	講　座	総合基礎科学，地域生涯発達看護学，地域健康支援看護学
		附属施設	附属病院
			医学教育開発研究センター（医学教育共同利用拠点）
			附属地域医療医学センター
			附属量子医学イノベーションリサーチセンター
工　学　部 4 学科 8 コース	社会基盤工学科	コース	環境・防災デザイン
	機械工学科		機械，知能機械
	化学・生命工学科		物質化学，生命化学
	電気電子・情報工学科		電気電子，情報，応用物理
		附属施設	附属インフラマネジメント技術研究センター
			附属応用気象研究センター
			附属プラズマ応用研究センター
			附属宇宙研究利用推進センター
			ものづくり技術教育支援センター
応用生物科学部 4 学科	応用生命化学科		
	食農生命科学科		
	生物圏環境学科		
	共同獣医学科		
		附属施設	附属岐阜フィールド科学教育研究センター
			附属動物病院
			附属野生動物管理学研究センター
			附属共同獣医学教育開発推進センター
			附属家畜衛生地域連携教育研究センター
社会システム経営学環			

教育学部

地域科学部

医学部 / 同附属病院

工学部 / 応用生物科学部

社会システム経営学環

■ 大学院

教育学研究科	専門職学位課程	教職実践開発専攻	コース	学校管理職養成，教育実践開発，教科指導能力開発	
	修士課程	教育臨床心理学専攻			
地域科学研究科	修士課程	地域政策専攻	領域	経済社会，行政社会，自然環境	
		地域文化専攻		社会生活，人間文化	
医学系研究科	博士課程	医科学専攻	講座	生命原理学	解剖学，生体物理・生理学，分子病態学，神経生理学，薬理病態学，再生機能医学
				生命秩序学	高次神経形態学，細胞情報学，形態機能病理学，法医学，生命機能分子設計学
				生命関係学	寄生虫学・感染学，病原体制御学，腫瘍病理学，疫学・予防医学，医学系倫理・社会医学，産業衛生学，医学教育学，医療経済学，システム生物学
				内科学	消化器内科学，臨床腫瘍学，循環器内科学，呼吸器内科学，血液・感染症内科学，糖尿病・内分泌代謝内科学，膠原病・免疫内科学，腎臓内科学，総合診療科・総合内科学
				外科学	心臓血管外科学，呼吸器外科学，消化器外科・小児外科学，乳腺外科学
				脳神経科学	脳神経内科学，脳神経外科学，脳病態解析学（連携大学院），精神医学
				感覚運動医学	整形外科学，リハビリテーション学，皮膚科学，形成外科学，眼科学，耳鼻咽喉科・頭頸部外科学，口腔外科学
				生体管理医学	麻酔科・疼痛医学，泌尿器科学，救急・災害医学，放射線医学，臨床検査医学，臨床薬剤学，臨床病理学
				生殖・発育医学	小児科学，産科婦人科学
				分野	
	修士課程	看護学専攻	領域	看護学教育	継続看護学教育
					総合基礎科学
				実践看護学	地域生涯発達看護学
					地域健康支援看護学
				専門分野	看護学教育
					生命機能学，総合科学
					母性看護学，小児看護学，成人急性期看護学，成人慢性期看護学，老年看護学
					精神看護学，精神看護学
	修士課程	医療者教育学専攻	領域	医療者能力開発学，医療者教育プログラム開発学，医療系倫理・社会医学教育学，総合病態内科学，地域医療教育学，医師育成学	
			寄附講座	心腎呼吸先端医学講座(岐阜県厚生農業協同組合連合会)，地域腫瘍学講座(岐阜県厚生農業協同組合連合会)，地域医療運動器医学講座(関ケ原町)，関節再建外科学先端医療講座(京セラ株式会社，ジンマー・バイオメット合同会社，スミス・アンド・ネフュー株式会社)，先端画像開発講座(岐阜県厚生農業協同組合連合会)，低侵襲・がん集学的治療学講座(岐阜県厚生農業協同組合連合会，ミヤリサン製薬株式会社，関ケ原町，下呂市)，地域医療放射線医学講座(高山赤十字病院)，虐待に関する救急医学講座(岐阜市民病院)，感染症寄附講座(岐阜県)，岐阜県ロコモ予防治療医学講座(岐阜県厚生農業協同組合連合会)，臨床解剖開発学講座(岐阜県厚生農業協同組合連合会)，先端ゲノム医療開発学講座(中部薬品株式会社)，小児希少難病早期診断・予防医学講座(一般財団法人岐阜県公衆衛生検査センター)，周術期疼痛制御・人材育成講座(岐阜県厚生農業協同組合連合会)，がん先端治療国際地域支援講座(社会医療法人厚生会)，地域共創型飛騨高山医療者教育学講座(高山市)，放射線量子医学研究講座(大垣市民病院)，先端医療小児外科学講座(地方独立行政法人岐阜県総合医療センター)，難治性脈管異常医学講座(ノーベルファーマ株式会社)	
			共同研究講座	ファージバイオロジクス研究講座（アステラス製薬株式会社）	
工学研究科	博士課程	工学専攻			
		岐阜大学・インド工科大学グワハティ校国際連携統合機械工学専攻			
		岐阜大学・マレーシア国民大学国際連携材料科学工学専攻			
自然科学技術研究科	修士課程	生命科学・化学専攻	領域	化学・創薬，分子生命科学，食品生命科学	
		生物生産環境科学専攻		応用植物科学，応用動物科学，環境生態科学	
		環境社会基盤工学専攻		環境社会基盤工学	
		物質・ものづくり工学専攻		物質化学，設計生産	
		知能理工学専攻		知能機械，知能情報学，応用数学物理	
		エネルギー工学専攻		エネルギー変換，電気エネルギー	
		岐阜大学・インド工科大学グワハティ校国際連携食品科学技術専攻			
共同獣医学研究科	博士課程	共同獣医学専攻	講座	基礎獣医科学，病態・応用獣医科学，臨床獣医科学	
連合農学研究科	博士課程	生物生産科学専攻			
		生物環境科学専攻			
		生物資源科学専攻			
		岐阜大学・インド工科大学グワハティ校国際連携食品科学技術専攻			
連合創薬医療情報研究科	博士課程	創薬科学専攻	研究領域	生命分子科学，システム生命工学	
			共同研究講座・部門	多段階重合発酵機能性共同研究講座（株式会社日本自然発酵） 白豆杉共同研究部門（株式会社紅豆杉）	
		医療情報学専攻	研究領域	生命情報，生体制御	
社会システム経営学院	修士課程				

■ 医学部附属病院

医学部附属病院は，県下唯一の大学医学部附属病院，特定機能病院として先進・高度医療を担い，がん・心筋梗塞・脳卒中・糖尿病・精神疾患の5疾病及び救急医療・災害医療・へき地医療・周産期医療・小児医療・新興感染症の6事業に積極的に取り組んでおり，都道府県がん診療連携拠点病院，高度救命救急センターをはじめ，難病疾患，肝炎，AIDS，周産期，基幹災害，原子力災害，アレルギー，循環器，脳卒中疾患などの拠点等に指定されている。2019年１月に，岐阜医療圏地域コンソーシアムが設立され，県内の医療発展のため，さまざまな院内外の連携を図るとともに，院内においても診療科の垣根を超えたチーム医療を推進・実施している。さらに2022年4月に感染制御室，医療の質管理室，総合臨床研修部，メディカルスタッフ研修支援センター，2023年1月に総合患者サポートセンター，2024年4月にロボット支援手術センター，2024年6月に脳卒中心臓病等総合支援センターを新たに設置するなど，より安全で質の高い医療を目指している。

医学部附属病院

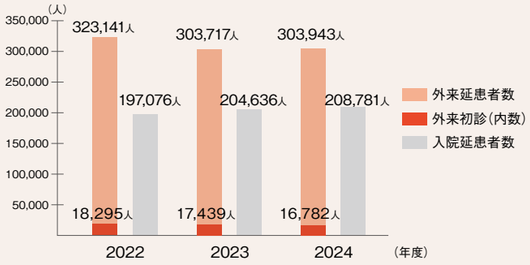
本院はポストコロナ時代に適応した「スマートホスピタル」の実現と「社会と医療のニーズに応える病院」を目指しており，特に安心・安全を基盤とした特定機能病院として，より先進的な医療を提供すると同時に地域に密着した病院としての役割を果たすべく，医療安全，臨床研究の推進，国際的にも活躍できる人材育成，よりよい医療の提供に取り組んでいる。

患者数（2024年度）

入院	患者延数	208,781 人
	1日平均患者数	572.00 人
	病床稼働率	93.16%
	入院稼働日数	365 日

外来	初診延患者数	16,782 人
	再診延患者数	303,943 人
	計	320,725 人
	1日平均患者数	1,319.86 人
	外来診療日数	243 日

患者数の推移



診療科及び病床数

2025年４月１日現在

区　分	病床数
第１内科	58
血液内科	
循環器内科	25
腎臓内科	5
呼吸器内科	20
糖尿病・内分泌代謝内科	20
脳神経内科	16
膠原病・免疫内科・総合診療科	11
心臓血管外科	20
呼吸器外科	9
消化器外科	64
乳腺外科	10
産婦人科	30
整形外科	45
脳神経外科	30

区　分	病床数
眼科	15
耳鼻咽喉科	37
形成外科	
皮膚科	8
泌尿器科	22
精神科	37
小児科	22
放射線科	1
麻酔科疼痛治療科	1
歯科口腔外科	5
高次救命治療センター	37
ICU	6
新生児集中治療部	12
共通	48
計	614

中央診療施設等		
検査部	生体支援センター	ゲノム疾患・遺伝子診療センター
手術部	がんセンター	ベッドコントロールセンター
放射線部	エイズ対策推進センター	呼吸器センター
材料部	肝疾患診療支援センター	アレルギーセンター
輸血・細胞治療部	リハビリテーション部	国際医療センター
病理部	周産期・生殖医療センター	炎症性腸疾患センター
総合診療部	医療機器センター	難聴児支援センター
医療情報部	高次画像診断センター	ドクタークラーク部
光学医療診療部	新生児集中治療部	栄養管理室
高次救命治療センター	オートプシー・イメージングセンター	ロボット支援手術センター
総合患者サポートセンター	脳卒中・心臓病等総合支援センター	臓器移植支援室

医療安全管理室	医師育成推進センター
薬　剤　部	看護師特定行為研修センター
看　護　部	内視鏡外科手術トレーニングセンター
診療録管理室	メディカルスタッフ研修支援センター
感染制御室	先端医療・臨床研究推進センター
医療の質管理室	臨床倫理室
総合臨床研修部	さわやかサービス推進室

■ 応用生物科学部附属動物病院

応用生物科学部附属動物病院は，獣医学の教育・研究・診療を実践する中部地区で唯一の施設である。近年の診療件数の増加に対応するため，またペットオーナーの求める高度な動物医療を提供するため，2010年４月に診療棟と多目的棟（旧リニアック棟），2012年４月にMRI-CT棟を増築した。診療棟は個室型の診察室，脳外科手術にも対応できる陽圧手術室，集中治療室などを備え，画像診断装置など最新の医療設備と電子カルテを導入した先進施設である。なお，国立大学では初めてとなる高エネルギー型放射線治療器，MRI棟には磁気共鳴断層装置（MRI）を導入した。さらに，2023年7月には高精度放射線治療が可能な放射線治療システムへ更新した。本院の特色は，伴侶動物及び産業動物を診察する複数の診療科を有していることである。伴侶動物を診療する内科，第一外科，第二外科，腫瘍科，麻酔科，神経科においては東海地区をはじめ近畿，北陸地区の個人病院から紹介を受け年間約11,300件の診療を行っており，産業動物科においては，岐阜地区における産業動物診療の一翼を担っている。

施設及び設備

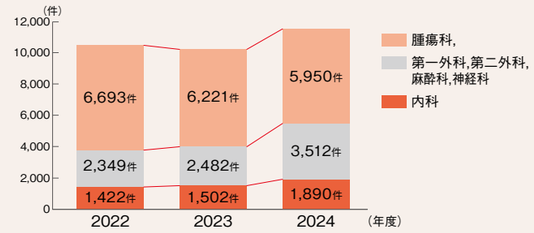
2025年４月１日現在

名称	床面積（㎡）	主な施設
診療棟	912	１階：診察室（７室），超音波検査室，処置室，第１検査室，薬室，受付事務室
		２階：陽圧手術室，一般手術室（３手術台），手術準備室，集中治療室，回復室，仮眠室（２室）
動物病院多目的棟・MRI-CT 棟	341	磁気共鳴断層検査室，操作室
動物病院棟（１階）	438	内視鏡・腹腔鏡検査室，歯科口腔外科診療室，X 線・画像解析室，第２検査室，病院長室・相談室，動物病院事務室
CT 棟	47	X 線 CT 撮影室，操作室
管理棟	260	動物入院室，供血動物室，医局
リニアック棟	400	高精度放射線治療室，休憩室，犬舎
合　計	2,398	

動物種類別の診療件数（実数）

年度	伴侶動物（件数）				産業動物（件数）					総計
	犬	猫	その他	計	牛	馬	豚	緬・山羊	計	
2022	8,677	1,781	0	10,458	1	0	2	4	7	10,465
2023	8,388	1,814	3	10,205	1	1	0	0	2	10,207
2024	9,265	2,088	1	11,354	1	2	0	0	3	11,357

内科,第一外科・第二外科・麻酔科・神経科,腫瘍科の診療件数（実数）の推移



■ 医学教育共同利用拠点

医学教育開発研究センター

医学教育に貢献できる人材育成と，国内外の医学教育機関との連携・共同研究を推進する全国共同利用施設として2001年に設立された。2010年４月には全国唯一の「医学教育共同利用拠点」として文部科学省から認定され，2025年４月からさらに3年間の拠点継続が承認された。拠点事業として毎年2回開催する「医学教育セミナーとワークショップ」は全国規模の教員養成プログラムとして高く評価されている。また，全国の医学部・医療系教育機関でリーダーとなる人材を育成するプログラムを開講し，修了者を「MEDCフェロー／アソシエイト」として認定している。

教育開発学部門では医療者教育の教育法・プログラム・評価法の開発に取り組み，指導者養成部門では，医療指導者のキャリア支援及び教育力の開発に取り組んでいる。プロフェッショナリズム教育，アウトカム基盤型医学教育，コンピュータ支援学習，ポートフォリオ評価システム，国際交流と医療英語教育，医療者教育学（修士課程）と医学教育学（博士課程）の大学院教育にも力を入れている。

テュトーリアル教育

模擬患者実習

医学教育ワークショップ

スキルスラボ実習

■ 保健管理センター

学生及び職員の健康増進，ならびに学生の安全衛生環境保持・改善を図るために，学内の保健計画を立案し，実践している。学生の健康診断の実施と生涯の健康を守るための保健指導，修学支援，救急処置，健康相談，健康啓発活動と，その業務は多彩である。特に，学生相談（メンタルヘルス），障害学生支援，留学生の健康管理の充実を図っている。
また，学生の健康に関する調査･研究を行い，学内の施策提言につなげているほか，県内の各大学と協働する中核を担っている。

■ 図書館

蔵書数

2025年4月1日現在

区　分	図書（冊）			雑誌（種）		
	和書	洋書	計	和雑誌	洋雑誌	計
図　書　館	529,088	214,844	743,932	9,479	3,862	13,341
医学図書館	83,137	86,565	169,702	1,529	1,804	3,333

ElsevierやSpringer等の電子ジャーナル約7,800 タイトル，ネットライブラリー等の電子ブック約24,700タイトル，
ScopusやCAS Sci Finder等のデータベースを導入している。

受付カウンター　入館ゲート

開館時間•休館日

区　分	月～金曜日	月～金曜日（試験期間）	土曜日	土曜日（試験期間）	休館日
図　書　館	9:00～19:00*1）	9:00～20:00	12:00～17:00	10:00～18:00	日曜日，祝日，夏季一斉休業日(8.9～17)，年末年始(12.27～1.4)，学休期間の一部土曜日
医学図書館	9:00～19:00*1）		12:00～17:00		日曜日，祝日，夏季一斉休業日（8.9～17），年末年始（12.28～1.4）

備考　休館日若しくは閉館時間を変更する場合がある。　＊1）一部平日に短時間開館あり（開館予定表は図書館ホームページにてご確認ください。）

利用状況（2024年度）

区　分			教職員	学生	学外者	計
入館者数（人）	図書館	蔵書スペース他	4,865	106,984	2,308	114,495
		プレゼンルーム＊1）	338			
	医学図書館		3,448	20,771	2,094	26,313
	計					140,808
貸出冊数（冊）	図書館		4,514	32,370	621	37,505
	医学図書館		686	2,735	3	3,424
	計		5,200	35,105	624	40,929
文献複写数（件）	図書館		1,015		672	1,687
	医学図書館		450		1,152	1,602
	計		1,465		1,824	3,289

備考　開館日数　図書館：273日，医学図書館：281日
＊1）プロジェクターや無線LAN等を備え，グループ学習やプレゼンテーション等の練習が可能な学習支援の場。

本館

■ アーカイブ・コア

アーカイブ･コアは岐阜大学創立70周年記念事業として図書館内に整備され，「PRAETER（プラエテール）」と「FUTURUM（フトゥールム）」の2つのゾーンから構成されている。

収蔵資料の例

教育学部　所蔵資料	世界最古級の印刷物「百万塔」，加納藩小川家甲冑
応用生物科学部　所蔵資料	カイコの解剖模型，農作物害虫図
工学部　所蔵資料	プラズマ CVD装置，フレキシブル太陽電池
医学部・同附属病院　所蔵資料	教育解剖図（丹下 年男作），日本画（守屋 多々志作）
地域科学部　所蔵資料	自治体史，各種行政資料，郷土資料 （所蔵場所：地域情報センター）

備考　上記の他，岐阜県内出土の考古資料等の古文書（90,000点超），写真や絵画等の美術作品（約60点），剥製や卵等の標本（約1,100点），人体解剖図（534点）を保管している。

PRAETER内 剥製標本群

教育　Education

学ぶ岐阜大学

■ 教育推進・学生支援機構

［体制図］

学生数

学部学生

2025年5月1日現在（人）

学部	学科等	入学定員	編入学	現員 1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次	計
教育学部		220		234 (133)	232 (145)	231 (130)	259 (139)			956 (547)
					1 (0)					1 (0)
地域科学部		100	10	105 (62)	104 (55)	116 (66)	123 (68)			448 (251)
				1 (0)	2 (0)	1 (0)	4 (0)			8 (0)
医学部	医学科	110		115 (54)	119 (62)	114 (54)	109 (43)	100 (41)	94 (30)	651 (284)
				1 (1)	2 (0)	1 (1)		1 (1)	1 (0)	6 (3)
	看護学科	80		80 (75)	80 (78)	87 (81)	77 (71)			324 (305)
										0 (0)
工学部		530	30	563 (95)	536 (94)	543 (101)	606 (85)			2,248 (375)
				3 (1)	1 (0)	5 (2)	6 (1)			15 (4)
応用生物科学部	応用生命科学課程 生産環境科学課程	160	10		181 (118)	169 (105)	176 (92)			526 (315)
						1 (1)	2 (2)			3 (3)
	応用生命化学科 食農生命科学科 生物圏環境学科			166 (108)						166 (108)
										0 (0)
	共同獣医学科	30		33 (18)	33 (16)	31 (16)	35 (22)	28 (21)	28 (20)	188 (113)
										0 (0)
社会システム経営学環		30		30 (17)	31 (16)	30 (14)	31 (21)			122 (68)
										0 (0)
合計		1,260	50	1,326 (562)	1,316 (584)	1,321 (567)	1,416 (541)	128 (62)	122 (50)	5,629 (2,366)
				5 (2)	6 (0)	8 (4)	12 (3)	1 (1)	1 (0)	33 (10)

現員には外国人留学生を含み，（ ）内は女子を，下段は外国人留学生をそれぞれ内数で示す。

大学院学生

専門職学位課程（教職大学院課程）

2025年5月1日現在（人）

研究科	課程	入学定員	現員 1年次	2年次	計	学位名
教育学研究科	専門職学位課程	40	39 (18)	48 (23)	87 (41)	教職修士（専門職）

修士課程

2025年5月1日現在（人）

研究科	課程	入学定員	現員 1年次	2年次	計	学位名
教育学研究科	修士課程	5	7 (5)	5 (4)	12 (9)	修士（教育学）
地域科学研究科	修士課程	20	7 (3)	18 (11)	25 (14)	修士（地域科学）
			5 (1)	12 (7)	17 (8)	
医学系研究科（医療者教育学専攻）	修士課程	6	6 (4)	6 (2)	12 (6)	修士（医療者教育学）
医学系研究科（看護学専攻）	修士課程	8	7 (5)	13 (10)	20 (15)	修士（看護学）
自然科学技術研究科	修士課程	385	498 (135)	509 (107)	1,007 (242)	修士（応用生物科学，工学又は食品科学技術）
			25 (16)	28 (9)	53 (25)	
社会システム経営学院	修士課程	6	6 (4)		6 (4)	修士（経営学）
			2 (2)		2 (2)	

博士課程

2025年5月1日現在（人）

研究科	課程	入学定員	博士課程 1年次	2年次	3年次	4年次	小計	学位名
医学系研究科	博士課程	47	38 (11)	54 (11)	51 (13)	102 (31)	245 (66)	博士（医学）
			2 (1)	3 (1)	1 (1)		6 (3)	
工学研究科	博士課程	27	35 (8)	23 (9)	59 (18)		117 (35)	博士（工学又は学術）
			18 (4)	15 (9)	31 (9)		64 (22)	
共同獣医学研究科	博士課程	6	14 (4)	4 (2)	7 (1)	9 (1)	34 (8)	博士（獣医学）
			2 (0)			2 (0)	4 (0)	
連合農学研究科	博士課程＊	20	29 (16)	30 (14)	59 (29)		118 (59)	博士（農学又は学術）
			14 (11)	13 (6)	23 (16)		50 (33)	
連合獣医学研究科	博士課程	0				2 (1)	2 (1)	博士（獣医学）
連合創薬医療情報研究科	博士課程	6	7 (4)	6 (4)	13 (4)		26 (12)	博士（工学，医科学又は薬科学）
			1 (1)	2 (2)	1 (1)		4 (4)	
大学院生　合計		570					1,711 (512)	
							196 (94)	

現員には外国人留学生を含み，（ ）内は女子を，下段は外国人留学生をそれぞれ内数で示す。
＊連合農学研究科は，後期３年のみの博士課程。

配置大学別学生数

2025年5月1日現在（人）

研究科	配置大学	現員 1年次	2年次	3年次	4年次	計
連合農学研究科	静岡大学	12 (8)	10 (5)	10 (5)		32 (18)
	岐阜大学	17 (8)	20 (9)	49 (24)		86 (41)
連合獣医学研究科	東京農工大学				1 (0)	1 (0)
	岐阜大学				1 (1)	1 (1)
合計		29 (16)	30 (14)	59 (29)	2 (1)	120 (60)

現員には外国人留学生を含み，（ ）内は女子を内数で示す。

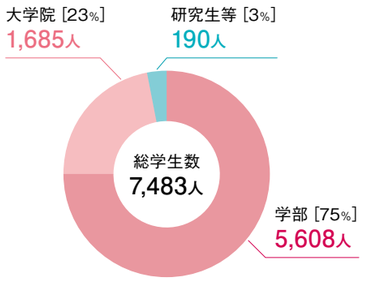
研究生・科目等履修生・聴講生等

2025年5月1日現在（人）

部局等	研究生	特別研究学生	科目等履修生	聴講生	特別聴講学生	現職教育内地留学生	日本語・日本文化研修留学生	短期特定課題受託研修生	計
教育学部			2 (0)						2 (0)
地域科学部	7 (7)								7 (7)
医学部	6 (2)							1 (1)	7 (3)
工学部	2 (1)		1 (0)		9 (0)				12 (1)
応用生物科学部			2 (0)		1 (1)				3 (1)
社会システム経営学環	2 (2)								2 (2)
教育学研究科	7 (5)	22 (1)							29 (6)
地域科学研究科		1 (1)			2 (2)				3 (3)
医学系研究科		1 (0)							1 (0)
工学研究科		4 (3)							4 (3)
自然科学技術研究科	3 (2)	3 (1)	28 (0)					1 (1)	35 (4)
共同獣医学研究科									0 (0)
連合農学研究科		1 (1)						1 (1)	2 (2)
連合獣医学研究科									0 (0)
連合創薬医療情報研究科									0 (0)
高等研究院									0 (0)
日本語・日本文化教育センター					13 (13)		5 (5)		18 (18)
ネットワーク大学コンソーシアム岐阜＊					8 (0)				8 (0)
教育推進・学生支援機構									0 (0)
合計	27 (19)	32 (7)	33 (0)	0 (0)	33 (16)	0 (0)	5 (5)	3 (3)	133 (50)

＊ネットワーク大学コンソーシアム岐阜（GUC）は，岐阜県内の大学等，高等教育機関 25 校と岐阜県が連携する大学連合。学生は，単位互換制度のもとに他大学の授業を受講し，単位を修得すれば自校の単位として認定される。（ ）内は外国人留学生を内数で示す。

総学生数



教育学部附属小中学校

2025年5月1日現在（人）

課程	学級別	学級	入学定員	現員
前期課程	通常学級	18	96	569
	特別支援学級	3	3	16
後期課程	通常学級	9	105	308
	特別支援学級	3	6	11
合計				904

入学状況

学部

2025年度（人）

学部		1年次入学 入学定員	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数	3年次編入学 入学定員	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数
教育学部		220	494	427	241	234	-	-	-	-	-
地域科学部		100	399	245	114	105	10	22	22	11	10
医学部	医学科	110	288	250	112	111	-	-	-	-	-
	看護学科	80	369	233	84	80	-	-	-	-	-
工学部		530	2,419	1,638	578	535	30	68	63	41	28
応用生物科学部	応用生命化学科 食農生命科学科 生物圏環境学科	160	619	442	181	166	10	24	22	3	2
	共同獣医学科	30	119	112	32	32	-	-	-	-	-
社会システム経営学環		30	84	75	32	30	-	-	-	-	-
合計		1,260	4,791	3,422	1,374	1,293	50	114	107	55	40

※医学科の受験者数は，第１段階選抜（一般選抜・前期日程において実施）で不合格となった者を含まない。※外国人留学生を含む。

大学院

2025年度（人）

研究科等		入学定員	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数
教育学研究科	専門職学位課程（教職大学院課程）	40	44	44	41	39
	修士課程	5	24	23	11	7
地域科学研究科	修士課程	20	11	10	7	7
医学系研究科	看護学専攻（修士課程）	8	10	10	7	7
	医療者教育学専攻（修士課程）	6	13	12	6	6
	医科学専攻（博士課程）	47	45	45	40	38
工学研究科	博士課程	27	24	24	24	21
自然科学技術研究科	修士課程	385	558	531	509	487
共同獣医学研究科	博士課程	6	9	9	9	9
連合農学研究科	博士課程	20	24	20	19	18
連合創薬医療情報研究科	博士課程	6	9	8	8	6
社会システム経営学院	修士課程	6	9	7	7	6
合計		576	780	743	688	651

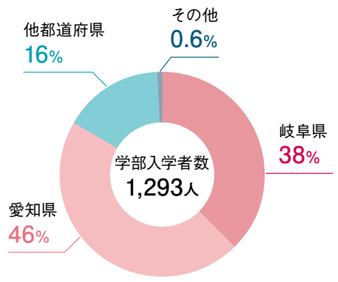
※入学者数は，４月入学者数（10月入学予定者は，連合農学研究科に７名あり）※外国人留学生を含む。

出身高校等の所在地別入学状況（学部・3年次編入学除く）

2025年度（人）

学部	愛知県	岐阜県	静岡県	三重県	滋賀県	長野県	京都府	神奈川県	石川県	大阪府	他都道府県	*その他	計
教育学部	50	163	4	2	3	2	0	0	3	1	6	0	234
地域科学部	39	47	3	5	1	1	1	0	0	0	5	3	105
医学部	66	92	3	3	0	1	3	4	1	2	15	1	191
工学部	350	124	8	7	8	2	1	2	2	4	24	3	535
応用生物科学部	72	53	9	4	6	5	5	3	3	2	35	1	198
社会システム経営学環	13	14	0	0	0	1	1	0	0	0	1	0	30
合計	590	493	27	21	18	12	11	9	9	9	86	8	1,293

※その他には高等学校卒業程度認定試験，外国の学校等を含む。※外国人留学生を含む。



学部卒業者数・進路状況

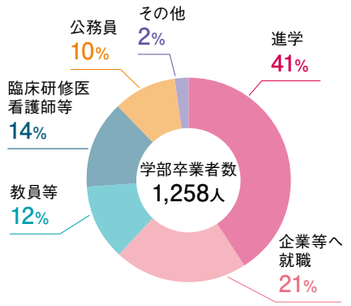
学部卒業者数

（人）

学部名		2024年度	累計
教育学部		232	20,172
地域科学部		111	2,979
医学部		184	6,657
工学部	昼間コース	505	28,042
	夜間主コース		847
応用生物科学部		194	14,779＊
社会システム経営学環		32	32
計		1,258	73,508

＊農学部の卒業生を含む。

卒業者進路状況



2024年度卒業者進路状況

進路状況

2025年5月1日現在（人）

区分＼学部名	教育学部	地域科学部	医学部 医学科	医学部 看護学科	工学部	応用生物科学部	社会システム経営学環	計
卒業者数	232 (133)	111 (68)	108 (35)	76 (75)	505 (88)	194 (130)	32 (21)	1,258 (550)
進学者数	28 (13)			2 (2)	377 (56)	103 (63)	1 (0)	511 (134)
就職者数	196 (114)	106 (63)	1 (0)	73 (72)	122 (32)	83 (63)	30 (21)	611 (365)
社会人学生（現職にとどまる者）								0 (0)
臨床研修医			106 (35)					106 (35)
その他	8 (6)	5 (5)	1 (0)	1 (1)	6 (0)	8 (4)	1 (0)	30 (16)
計	232 (133)	111 (68)	108 (35)	76 (75)	505 (88)	194 (130)	32 (21)	1,258 (550)

就職者 産業別状況

産業分類＼学部名	教育学部	地域科学部	医学部 医学科	医学部 看護学科	工学部	応用生物科学部	社会システム経営学環	計
農業，林業，漁業						4 (3)		4 (3)
鉱業，採石業，砂利採取業								0 (0)
建設業	1 (0)				8 (3)		6 (4)	15 (7)
製造業	4 (1)	5 (4)			55 (14)	22 (18)	4 (3)	90 (40)
電気・ガス・熱供給・水道業					2 (1)			2 (1)
情報通信業	9 (7)	11 (8)			13 (3)	2 (2)	4 (2)	39 (22)
運輸業，郵便業	1 (0)	4 (1)			1 (0)			6 (1)
卸売業，小売業	6 (1)	9 (6)			1 (0)	2 (1)	3 (3)	21 (11)
金融業，保険業	8 (4)	2 (2)				4 (2)	5 (2)	19 (10)
不動産取引・賃貸・管理業								0 (0)
学術研究，専門・技術サービス業	1 (1)	3 (2)			13 (5)	16 (13)	2 (1)	35 (22)
宿泊業，飲食サービス業	2 (1)							2 (1)
生活関連サービス業，娯楽業	1 (1)	2 (1)						3 (2)
学校教育	131 (76)	1 (0)				1 (1)	1 (1)	134 (78)
その他の教育，学習支援業	5 (2)	3 (2)	1 (0)		1 (0)	2 (2)		12 (6)
医療業，保健衛生				73 (72)		3 (3)	1 (1)	77 (76)
社会保険・社会福祉・介護事業	4 (2)	2 (1)						6 (3)
複合サービス事業	1 (1)	2 (1)				2 (2)		5 (4)
宗教，その他のサービス業	2 (1)	3 (3)			6 (1)	1 (1)	1 (1)	13 (7)
国家公務	1 (0)	13 (9)			2 (0)	7 (6)		23 (15)
地方公務	19 (16)	46 (23)			18 (5)	17 (9)	3 (3)	103 (56)
その他					2 (0)			2 (0)
計	196 (114)	106 (63)	1 (0)	73 (72)	122 (32)	83 (63)	30 (21)	611 (365)

（ ）内は女子を内数で示す。

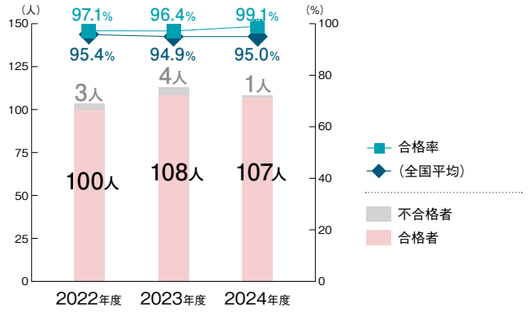
■ 国家試験合格状況・教員採用状況

医師国家試験合格状況

（人）

	2022年度	2023年度	2024年度
受験者数	103	112	108
合格者数	100	108	107
不合格者数	3	4	1
合格率	97.1%	96.4%	99.1%
（全国平均）	95.4%	94.9%	95.0%

＊新卒者のみ

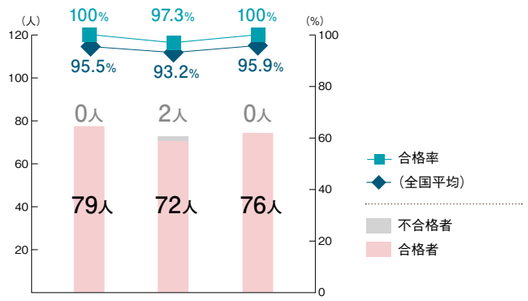


看護師国家試験合格状況

（人）

	2022年度	2023年度	2024年度
受験者数	79	74	76
合格者数	79	72	76
不合格者数	0	2	0
合格率	100%	97.3%	100%
（全国平均）	95.5%	93.2%	95.9%

＊新卒者のみ

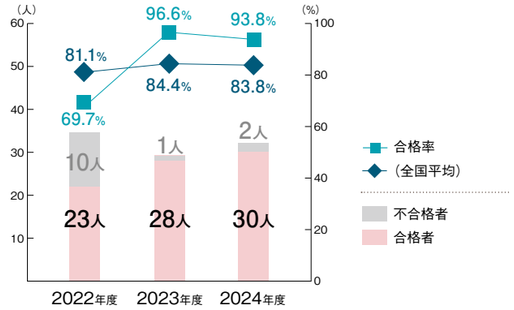


獣医師国家試験合格状況

（人）

	2022年度	2023年度	2024年度
受験者数	33	29	32
合格者数	23	28	30
不合格者数	10	1	2
合格率	69.7%	96.6%	93.8%
（全国平均）	81.1%	84.4%	83.8%

＊新卒者のみ

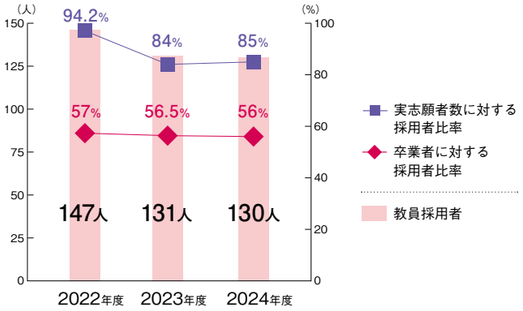


教員採用率（教育学部）

（人）

	2022年度	2023年度	2024年度
卒業者数	258	232	232
教員実志願者数	156	156	153
教員採用者数	147	131	130
（うち臨時採用者数）	29	29	32
志願者数に対する採用者比率	94.2%	84%	85%
卒業者に対する採用者比率	57%	56.5%	56%

＊新卒者のみ



■ 大学院（修士課程）修了者数・進路状況

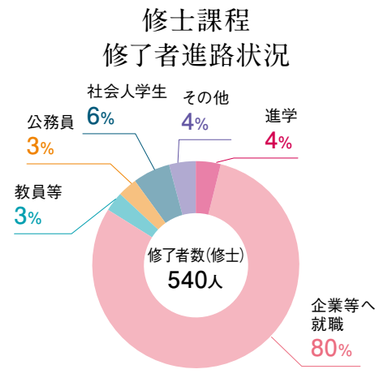
学位授与者数（修士）

（人）

修　士	2024年度	累　計
教育学	38	1,940 ＊1
地域科学	13	444
再生医科学	0	197
医療者教育学	7	31
看護学	3	123
工学	358	10,949
応用生物科学	114	3,828 ＊2
食品科学技術	7	12
計	540	17,524

＊1 教職修士（専門職）の学位授与者を含む。
＊2 農学の学位授与者を含む。

修士課程 修了者進路状況



2024年度修了者進路状況（修士）

進路状況

2025年5月1日現在（人）

区分＼研究科名	教育学研究科 修士課程		教育学研究科 専門職学位課程		地域科学研究科 修士課程		医学系研究科 修士課程		自然科学技術研究科 修士課程		計	
修了者数	4	(4)	34	(9)	13	(9)	10	(4)	479	(117)	540	(143)
進学者数			2	(0)			1	(0)	19	(5)	22	(5)
就職者数	4	(4)	12	(3)	5	(4)	2	(1)	442	(107)	465	(119)
社会人学生（現職にとどまる者）			20	(6)	1	(0)	7	(3)	2	(0)	30	(9)
臨床研修医											0	(0)
その他					7	(5)			16	(5)	23	(10)
計	4	(4)	34	(9)	13	(9)	10	(4)	479	(117)	540	(143)

就職者 産業別状況

産業分類＼研究科名	教育学研究科 修士課程		教育学研究科 専門職学位課程		地域科学研究科 修士課程		医学系研究科 修士課程		自然科学技術研究科 修士課程		計	
農業，林業											0	(0)
鉱業・採石業，砂利採取業											0	(0)
建設業									8	(1)	8	(1)
製造業	1	(1)							289	(66)	290	(67)
電気・ガス・熱供給・水道業									28	(10)	28	(10)
情報通信業					1	(1)			49	(8)	50	(9)
運輸業，郵便業					1	(1)			4	(0)	5	(1)
卸売業，小売業					1	(1)			5	(0)	6	(1)
金融業，保険業					1	(0)					1	(0)
不動産取引・賃貸・管理業											0	(0)
学術研究，専門・技術サービス業									34	(10)	34	(10)
宿泊業，飲食サービス業											0	(0)
生活関連サービス業，娯楽業											0	(0)
学校教育	1	(1)	12	(3)			1	(1)	4	(2)	18	(7)
その他の教育，学習支援業									1	(1)	1	(1)
医療業，保健衛生							1	(0)	1	(1)	2	(1)
社会保険・社会福祉・介護事業											0	(0)
複合サービス事業											0	(0)
宗教，その他のサービス業	1	(1)			1	(1)			4	(2)	6	(4)
国家公務									4	(1)	4	(1)
地方公務	1	(1)							10	(5)	11	(6)
その他									1	(0)	1	(0)
計	4	(4)	12	(3)	5	(4)	2	(1)	442	(107)	465	(119)

（　）内は女子を内数で示す。

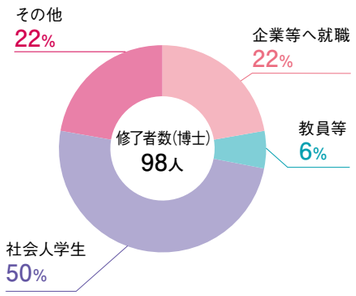
■ 大学院（博士課程）修了者数・進路状況

学位授与者数（博士）

（人）

博　士		2024 年度	累　計
医　学	課程博士	32	1,301
	論文博士	3	1,518
再生医科学	課程博士	0	75
	論文博士	0	10
工　学	課程博士	15	697
	論文博士	2	89
学　術	課程博士	5	7
	論文博士	0	0
農　学	課程博士	21	864
	論文博士	2	168
獣　医　学	課程博士	5	623
	論文博士	0	178
薬　科　学	課程博士	0	32
	論文博士	0	3
医　科　学	課程博士	1	26
	論文博士	0	1
計		86	5,592

博士課程 修了者進路状況



2024年度修了者進路状況（博士）

進路状況

2025年5月1日現在（人）

区　分＼研究科名	医学系研究科		工学研究科		共同獣医学研究科＊		連合農学研究科		連合創薬医療情報研究科		計	
修了者数	32	(7)	27	(2)	5	(1)	30	(8)	4	(2)	98	(20)
進学者数											0	(0)
就職者数			7	(0)	2	(0)	17	(3)	2	(1)	28	(4)
社会人学生（現職にとどまる者）	30	(6)	12	(1)	3	(1)	2	(1)	1	(0)	48	(9)
臨床研修医											0	(0)
その他	2	(1)	8	(1)			11	(4)	1	(1)	22	(7)
計	32	(7)	27	(2)	5	(1)	30	(8)	4	(2)	98	(20)

就職者 産業別状況

産業分類＼研究科名	医学系研究科		工学研究科		共同獣医学研究科＊		連合農学研究科		連合創薬医療情報研究科		計	
農業，林業											0	(0)
鉱業，採石業，砂利採取業											0	(0)
建設業			1	(0)							1	(0)
製造業			1	(0)			8	(2)	1	(0)	10	(2)
電気・ガス・熱供給・水道業											0	(0)
情報通信業											0	(0)
運輸業，郵便業											0	(0)
卸売業，小売業											0	(0)
金融業，保険業											0	(0)
不動産取引・賃貸・管理業											0	(0)
学術研究，専門・技術サービス業			1	(0)			3	(0)			4	(0)
宿泊業，飲食サービス業											0	(0)
生活関連サービス業，娯楽業											0	(0)
学校教育			3	(0)	2	(0)	4	(0)			9	(0)
その他の教育，学習支援業			1	(0)			2	(1)	1	(1)	4	(2)
医療業，保健衛生											0	(0)
社会保険・社会福祉・介護事業											0	(0)
複合サービス事業											0	(0)
宗教，その他のサービス業											0	(0)
国家公務											0	(0)
地方公務											0	(0)
その他											0	(0)
計	0	(0)	7	(0)	2	(0)	17	(3)	2	(1)	28	(4)

（ ）内は女子を内数で示す。 ＊連合獣医学研究科の学生も含む

■ 学生支援施設

福利厚生施設等

大学会館

食　堂
第１食堂（452 席）
自動販売機コーナー
共用談話室
ルポ（唐揚げ丼専門店）（70 席）

売　店
売店，書店
現金自動預金支払機

課外活動
大ホール
音楽鑑賞室
第１～第４集会室，第６集会室
第９～第 12 集会室（9,11 和室）

相談窓口
キャリア・就職支援センター
ウェルネスルーム
カモミール・カフェ

第２食堂

食　堂
ホール（507 席）
コンビニコーナー（PECO）

医　学　部　教育・福利棟

食　堂
医学部食堂（156 席）

売　店
売店，書店

学生寮

施　設　名	黒　野　寮（岐阜市柳戸１番１）
室数・収容定員	200（男性） 75（女性）

すみか（第１回岐阜大学フォト＆アートコンテスト受賞作品）

体育施設・課外活動施設

屋内体育施設

施　設　名	施設の内容
体　育　館	第１体育館，第２体育館更衣室（ロッカー・シャワー），器具庫 フィットネスルーム
武　道　場	（剣道場，柔道場）
弓　道　場	

屋外体育施設

施　設　名	施設の内容
陸上競技場	400m ８コース
野　球　場	
テニスコート	12 面（人工芝６面，全天候６面）
バレーボールコート	４面（全天候）
ハンドボールコート	２面（クレー１面，全天候１面）
バスケットボールコート	３面（全天候）
サッカー場	１面
ラグビー場	１面
水泳プール	１基（50m ８コース）

課外活動施設

施　設　名	施設の内容
体育系サークル共用施設	共用室 10 室（１室２サークル），会議室１室
文化系サークル共用施設	共用室 10 室（１室和室）（１室２～４サークル）
合　宿　所	
自動車車庫	
グライダー格納庫	
きゅう舎・馬場	
アーチェリー場	

■ 学生サークル活動

課外活動団体一覧

2025年5月1日現在

全学行事団体　（3団体）

- 岐阜大学祭全学執行委員会
- 岐阜大学全学春祭実行委員会
- 岐阜大学学生企業展実行委員会

文化系サークル　（32団体）

- アコースティックギターサークル 央
- 裏千家茶道部
- 学生団体 Dream Box
- 防災サークル たすく
- 学生放送研究会ラジスタ
- 環境サークル G-amet
- 管弦楽団
- ギター・マンドリンクラブ
- 競技かるた部
- 軽音楽部
- コーラスクラブ
- GI（岐阜大学生協学生委員会）
- 児童文化人形劇研究会コロッポ
- ジャグリングサークル Juggrass
- 写真研究会
- 吹奏楽団
- 生物科学研究会
- 地域ねこサークル
- ツキノワグマ研究会
- テーブルゲームサークル
- 動物園学生くらぶ
- 美術部
- フォーク村
- 文芸サークル
- 邦楽部
- 星を観る会
- 漫画研究会
- ユネスコ学生クラブ
- 落語研究会
- Ryugaku Love
- 緑化研究会 Three trees
- ロボコンサークル

体育系サークル　（34団体）

- 合気道部
- アメリカンフットボール部
- 居合道部
- 空手道部
- 弓道部
- 剣道部
- 航空部
- 硬式庭球部
- 硬式野球部
- サッカー部
- 山岳部
- 自動車部
- 柔道部
- 準硬式野球部
- 少林寺拳法部
- 水泳部
- ストリートダンス部 MEC
- ソフトテニス部
- 体操競技部
- 卓球部
- チアリーダー部 Stars
- テコンドー部
- 馬術部
- バスケットボール部
- バドミントン部
- バレーボール部
- ハンドボール部
- フォーミュラレーシング
- ボート部
- よさこいサークル騒屋
- ラクロス部
- ラグビー部
- 陸上競技部
- ワンダーフォーゲル部

医学部学生団体（運動部）（17団体）

- 水泳
- バスケットボール
- 硬式テニス
- サッカー
- 陸上
- スキー
- ボート
- ハンドボール
- 準硬式野球
- ソフトテニス
- ゴルフ
- ラグビー
- バドミントン
- 弓道
- 剣道
- バレーボール
- 卓球

医学部学生団体（文化部）（11団体）

- GEMs(岐阜救急医療学生研究会)
- 奥穂高岳夏山診療所サークル
- ぎふ医療ケアサークル
- 箏曲
- リーベ・バルツェ（軽音）
- 美術
- カスタニュエラ（バンド）
- きりんの会（臨床技能）
- GIFMSA(国際医学生連盟岐阜)
- ピアノ
- 室内合奏団

上記の他に，同好会（49団体）がある。

秋の野外ライブ(第1回岐阜大学フォト＆アートコンテスト応募作品)

岐阜大学での練習(第1回岐阜大学フォト＆アートコンテスト応募作品)

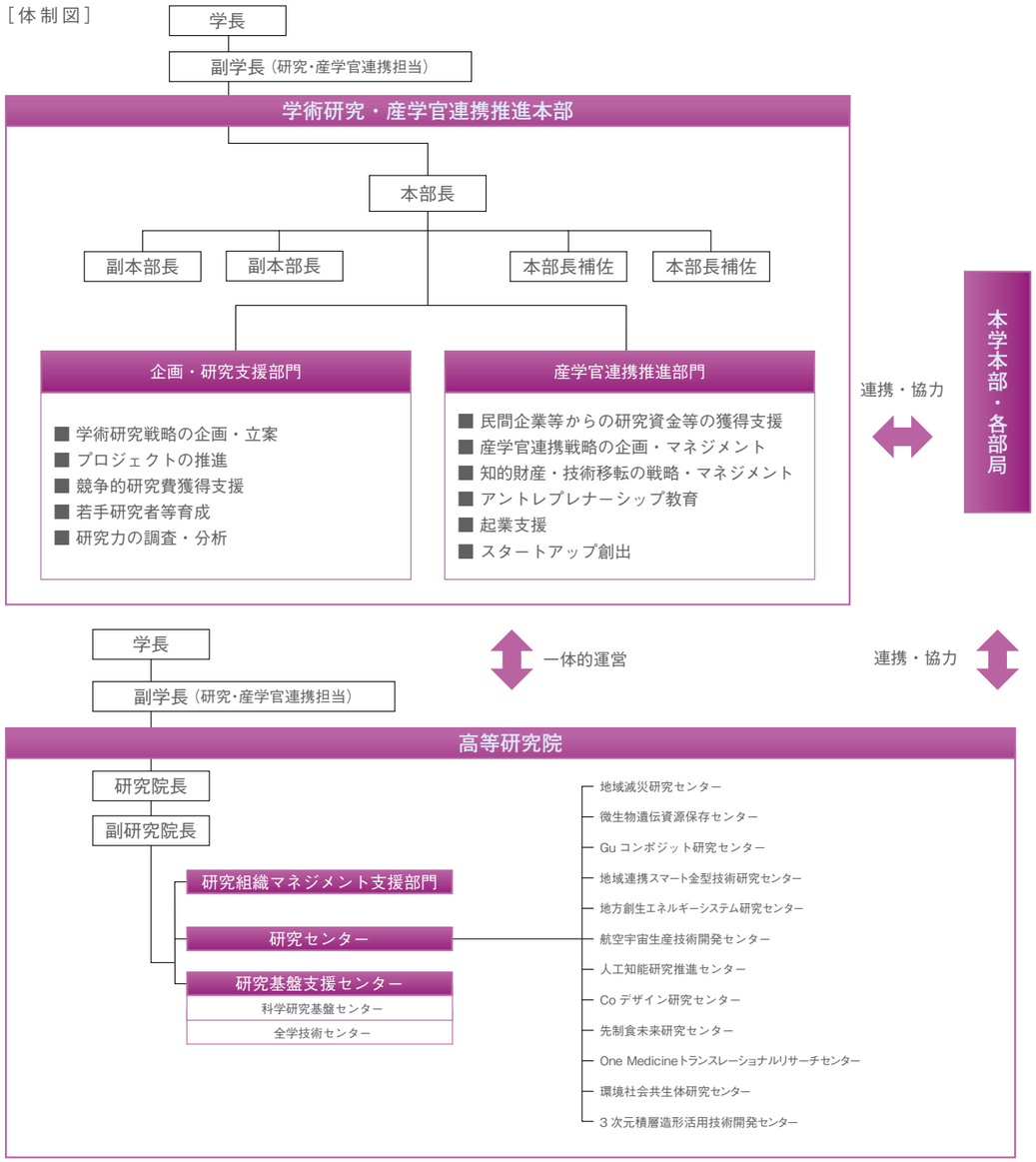
研究 Research

究める岐阜大学

■ 学術研究・産学官連携推進本部

■ 高等研究院

［体制図］



■ 連携拠点支援事業

岐阜大学と名古屋大学が，その特徴や強みを活かした連携によりシナジー効果を最大限発揮し「特定の領域において世界と伍する研究拠点又は全国トップレベルの研究拠点を目指す拠点」あるいは「T-PRACTISSに大きく貢献する拠点」として，東海国立大学機構が認定し支援している。

※東海国立大学機構を中心とする大学連合体を起点として，東海地域において，ダイナミックに循環する価値創造の流れを創出するモデルを「T-PRACTISS」と位置づけています。
T-PRACTISS：T=THERS（Tokai National Higher Education and Research System）
PRACTISS=Project to Renovate Area Chubu into Tech Innovation Smart Society

糖鎖生命コア研究拠点（iGCORE）

iGCORE
Institute for Glyco-core Research

生命活動に欠かせない第3の生命鎖「糖鎖」。糖鎖の構造と機能を解き明かす，世界トップクラスの統合糖鎖研究所である。

本研究拠点は，岐阜大学の糖鎖化学分野・糖鎖イメージング分野と名古屋大学の糖鎖生物学分野・糖鎖医学分野の世界トップレベルの研究者が集結した世界で無二の統合的糖鎖拠点である。核酸，タンパク質に続く第３の生命鎖である糖鎖の統合的研究により新たな生命原理の解明，個別予防や未病検知といった医療革新につながる基礎研究を推進するため，機構内の研究力を結集し，国際的な研究戦略のもとに世界でのリーダーシップを発揮する。

航空宇宙研究教育拠点

航空宇宙の設計技術と生産技術に関する科学的・体系的な教育・研究開発を行う国内初の拠点である。

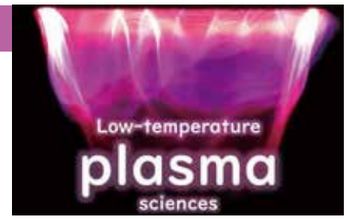
本拠点では，急速な技術進化と社会の要請に応えるため，航空宇宙関連企業と連携し，生産技術が理解できる「設計技術者」および設計技術が理解できる「生産技術者」の育成を目指す設計と生産を統合した人材育成プログラムを整備している。また，モビリティ，電動化，新材料など幅広い分野の研究成果を活かし，次世代の航空宇宙機開発につながる学術研究や応用開発を推進するとともに，航空宇宙産業の抜本的な生産性向上のため，大学・企業の研究者が協働で情報学と工学を融合させる「サイバー・フィジカル工場」の実現に向けた研究開発を進め，世界をリードする技術開発と社会課題の解決に貢献する。

健康医療ライフデザイン統合研究教育拠点

信頼性の高い健康医療情報の創出とデータ駆動型事業の実践を通して，Well-beingになる健康医療社会の創成とSDGs，Society5.0の実現を目的とした拠点である。

本拠点では，エビデンスが確保された，信頼性の高い健康医療情報を創出して，健康医療に関する社会的課題を持続的に解決できる体制を構築し，成果を発信し続けるデータ駆動型事業の実践を通して，Well-beingになる健康医療社会の創成とSociety5.0，SDGsの実現につなげることを目指している。また，信頼できる健康医療データ基礎を構築し，英語の「Life」にある３つの意味，「いのち」，「生活」，「人生」のそれぞれを対象にデザインした研究教育を統合的に行うことで，社会的課題を解決して人と社会に貢献する。

低温プラズマ総合科学研究拠点



低温プラズマは我が国のモノづくりの生命線。異分野融合の共同利用・共同研究を推進して，イノベーションを興す世界最高峰の研究を行う拠点である。

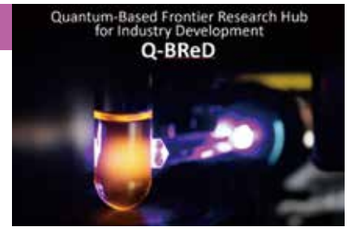
本拠点では，岐阜大学工学部附属プラズマ応用研究センターと名古屋大学低温プラズマ科学研究センターの強みを相乗的に活かし，国内外の研究者との多様な共同利用・共同研究を推進する。カーボンニュートラルの実現や，世界的食糧問題の解決を目指す破壊的イノベーションを達成するために，低温プラズマを中心に据える多様な学問領域の境界を越える学融合領域によって，低温プラズマの新価値創成を進めていく。

One Medicine創薬シーズ開発・育成研究教育拠点

「One Medicine（ヒトと動物の疾病は共通）」の視座にたち，医学，獣医学，薬学，工学等の研究者が分野横断的に連携し，創薬シーズ開発研究を行う拠点である。

本拠点では，比較医学にもとづくオーダーメイド型疾患モデル動物を強みとして，構造生物学や細胞・再生医学，マルチオミクス解析，インフォマティクスにもとづき核酸から蛋白質，細胞，人工マテリアルまで多様なモダリティによる創薬シーズを開発・育成し，量子技術，AIを駆使した先端医療機器を組み合わせることで，臨床Proof of Concept（POC）取得成功率の高い有望な創薬シーズを高度に選別し，非臨床試験，治験につなげる研究拠点として，新たな創薬研究の先導を目指す。

量子フロンティア産業創出拠点



独自の「化学の観点」を組み入れた量子技術により，化学・電子材料，電子機器，医療診断・治療を革新し，量子技術の社会実装を目指す拠点である。

本拠点では，医療も含めた量子技術の産業への利活用に向けて，岐阜大学が活発に進めてきた量子技術を用いた次世代MRI技術である超偏極MRIの医療応用及び名古屋大学の強みのひとつである「化学」の観点による量子技術の社会実装を目指す。それぞれの大学が独自で推進してきた２つの研究活動について，両大学間で強く連携を図り，原子・分子レベルで量子状態を制御して医療及び産業への利活用を促進する「量子フロンティア産業創出拠点」を形成し，量子研究の産業応用の加速や新たな研究展開・新産業創出を推進する。

■ 特色ある研究の取り組み

研究所

糖鎖生命コア研究所（2021年1月設置）

本研究所は，糖鎖生命コア研究拠点の研究戦略に基づき，糖鎖研究を行うための組織として名古屋大学と共同で設置した。糖鎖生物学・医学と糖鎖分子科学（化学，生化学，生物物理学，分析化学，数理）のトップランナーが集結した日本で最大の糖鎖研究に特化した研究所である。異分野の糖鎖研究を融合することにより，生命の本質・原理（コア）を1分子レベルから個体レベルまでのマルチスケールの研究で明らかにすることを目的とする。研究所の主幹事業として自然科学研究機構及び創価大学と共に実施している大規模糖鎖研究プロジェクト「ヒューマングライコームプロジェクト（Human Glycome Atlas Project：HGA）」は，令和５年度から生命科学領域において初の文部科学省「大規模学術フロンティア促進事業」として推進されている。さらに,令和４年度より文部科学大臣認定の共同利用・共同研究拠点「糖鎖生命科学連携ネットワーク型拠点（J−GlycoNet）」の中核拠点として国内外での異分野融合を推進し，糖鎖研究を先導する国際拠点としての基盤を確立する。

研究センター

地域減災研究センター（2015年4月設置）

岐阜大学の防災・減災に関する研究シーズや高度な専門知識に基づいた「知の拠点」として地域のシンクタンク機能を担い，これによって，地域のニーズに応えて防災・減災力を強化することを目指したセンターである。具体的には，防災・減災に関する学術的・実践的な調査研究を推進するとともに，地域防災力向上のための新たな仕組み・事業を提案している。さらに，実効性の高い災害対策を策定・推進するため，専門的知見に基づいて政策決定支援・技術支援・地域課題解決支援を行っている。

【部門】減災技術開発部門, 災害医療部門, 減災社会推進部門

微生物遺伝資源保存センター（2016年4月設置）

国としても重要な微生物遺伝資源である病原微生物株の保存センター。病原細菌の網羅的なコレクションを維持している。維持管理だけでなく，分譲可能な保有微生物株及び付随する遺伝情報については分譲もおこなう。これらの業務を通して社会のニーズに即した研究及び産業応用に資する微生物遺伝資源の利用促進を図り，社会に貢献することを目的としている。貴重な微生物株については，寄託も受け付けている。

【業務】系統収集・維持・分譲

Guコンポジット研究センター（2018年4月設置）

ものづくり分野の研究センターとして,分子の集合体から繊維と樹脂の複合体まで,マルチスケールに複合材料を研究している。物質化学,生命化学,機械工学から医学に至る複合領域体制により,テーラードマテリアル&デザインによる少量多品種のものづくりを確立し,航空機,自動車などの軽量部材にとどまらず,人体と関わる複合材料の開発を進めている。また，東海北陸地区の複合材料３センターのひとつとして，地域産業との協力体制を推進すると同時に,グローバルな展開を目指している。

【領域】バリアフリーマテリアル領域,ヒューマンコンポジット領域,コンポジットリサイクル領域

地域連携スマート金型技術研究センター（2018年4月設置）

岐阜大学のものづくり分野に関する研究力を,AIとIoT分野の研究力でさらに強化し，スマート金型に代表される生産技術開発，高信頼性設計技術や3D造形技術の開発および人材育成で，我が国のあらゆる製造企業の国際競争力向上に貢献することを目的としている。

【部門】データ解析技術研究部門, 加工技術研究部門, 設計技術研究部門, 3D造形技術研究部門, 人材育成部門, 地域連携部門

地方創生エネルギーシステム研究センター（2018年4月設置）

再生可能エネルギー利用によるCO_2フリーエネルギーを「つくる」,「ためる」,「はこぶ」,「つかう」革新的コア技術を基盤に,「地産地消型地域エネルギーシステム」（地方創生モデル）を産官学連携して社会実装を図る。このモデルを実現するために，再生可能エネルギー高効率利用およびカーボンリサイクルなどの革新的要素技術を個別にブレークスルーするだけでなく，電動車両によるバーチャルグリッドエネルギーシステムや自立分散型エネルギーシステムを統合したカーボンニュートラルエネルギーシステムの構築を目指す。

【分野】エネルギー創造分野, キャリア・ストレージ分野, 新産業創出分野, エネルギーシステム統合分野

航空宇宙生産技術開発センター（2019年4月設置）

航空宇宙研究教育拠点で実施しているプロジェクト「航空宇宙生産技術開発センターを核とした地域における知・人材の集積・定着」を推進し，生産システムアーキテクトの育成及び最先端の生産技術に関する革新的な研究開発を行う。

人工知能研究推進センター（2019年4月設置）

最先端の人工知能，IoT，データ科学の周辺研究を推進するとともに，学部間を横断する研究組織形成の窓口として，新たな人工知能の応用研究を開拓し，本学の強み研究を加速させることを目的とする。そのために，全学の教員，学生に対して人工知能の最新技術に関する勉強会や研究会を開催し，様々な研究分野の研究者がAIを利用できるような環境を構築する。さらに，地域企業との共同研究支援，地域産業への最新技術やAI技術者の供給拠点となることを目指している。

【部門】教育部門, 研究部門, 共同研究推進部門

Coデザイン研究センター（2020年4月設置）

地域価値を高め，人々の生活を豊かにする地域づくりシンクタンクとして，ひと・まち・かちの望ましいシステムを学際的に探究し，産官学が協働して活力ある持続可能な社会の実現を図る。経験価値を創出するデザイン主導のアプローチとともに，都市計画，総合防災，景観デザイン，都市形成史，資源利用，ニーズ評価，商品開発，経済効果計測，意識構造分析，人材育成・教育効果の分析等のデータ主導のアプローチを併せた総合企画・総合政策を共創し，ニーズの抽出から目的の達成・効果の検証まで共にデザイン研究する。

【分野】ひとデザイン分野,まちデザイン分野,かちデザイン分野

先制食未来研究センター（2022年4月設置）

日本の高齢化率をふまえた健康寿命の延伸を課題とし，生活習慣病やフレイル，認知症といった疾病の発症・重症化予防に資する「食」を明らかにすることを目的とする。これにより,「ガストロノミーマニフェスト（食革新）」を策定し，その実践を通して，健康寿命の延伸に寄与する「人類の食の未来ビジョン」を提案することを目指す。

【部門】食未来研究部門, 地域コホート研究部門, 先制食研究部門

One Medicineトランスレーショナルリサーチセンター（2023年1月設置）

「ヒトと動物の疾病は共通」，すなわち「One Medicine」の視座にたち，医学ー獣医学の境界を越えた新たな学際領域を開拓する。そして，医学，獣医学，薬学，工学等の研究者が分野横断的かつ国内外で施設横断的に連携し，有望な創薬シーズを高度に選別し，治験につなげることでヒトと動物の創薬研究を変革する。
「One Medicine」の視座のもと国際的に我が国が後れをとる医薬品開発の成功率を高めるだけでなく,「Sharing Medicine（人獣共通医療学）」という新たな学術領域を開拓する。

【部門・室】比較医科学研究開発部門, 創薬データサイエンス部門, 革新的モダリティ創出部門, 先端医療機器開発部門, リサーチマネジメント室

環境社会共生体研究センター（2024年4月設置）

環境問題や自然資源に関する基礎的な研究から，気候変動への適応やカーボンニュートラル課題に関する応用研究まで一貫して実施するミッションを地域や国内外のステークホルダーとも連携しながら高度なレベルで早期に実現することを目的とする。

【領域・支援室】環境資源研究領域, 環境変動適応研究領域, 社会システム研究領域, 脱炭素・環境エネルギー研究連携支援室

3次元積層造形活用技術開発センター（2025年4月設置）

積層造形技術を国内産業構造に適した運用方法に最適化し，技術の標準化を達成することを目指した研究開発を実施すると共に，積層造形技術を用いた新たなものづくり人材を育成することを目的とする。

【室】造形技術標準化研究室, 造形特性評価研究室, 設計支援技術研究室, 人材育成企画室

研究基盤支援センター

科学研究基盤センター（2018年4月設置）

生命科学総合実験センターの名称で2003年４月に設置された全学の共同教育研究基盤施設。個々の研究室では導入・維持・整備が困難な高額・大型機器を効率的に提供し，一部受託解析も行うことにより，生命科学に関連する先進的分野の教育研究支援を行うとともに，法令遵守のもと維持・管理に労力を要する実験動物飼育，嫌気性菌株保存，放射性同位元素（RI）使用の各施設を提供し，本学における教育研究の総合的推進を図ることを目的としている。

【分野】ゲノム研究分野・嫌気性菌研究分野・動物実験分野・機器分析分野・RI実験分野
【共同研究講座】抗酸化研究部門

全学技術センター（2020年4月設置）

教育及び研究に対する技術的な支援並びに技術職員の能力等の向上及び技術の継承を行うことにより，本学の教育及び研究の発展に寄与することを目的とする。また，東海国立大学機構内で名古屋大学全学技術センターと連携した組織として設置された統括技術センターを兼務して，コアファシリティを推進することにより，高度な教育・研究環境の提供と地域貢献を行う。

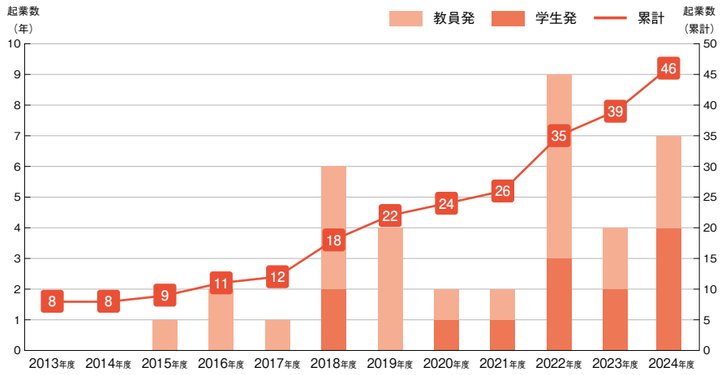
■ 科学研究費助成事業

科学研究費補助金•学術研究助成基金助成金（令和6年度受入実績）

研究種目	件数	直接経費（千円）	間接経費（千円）	部局別件数																				
				教育学部・教育学研究科	地域科学部	医学部	医学系研究科	医学部附属病院	工学部	応用生物科学部	社会システム経営学環	共同獣医学研究科	連合農学研究科	連合獣医学研究科	連合創薬医療情報研究科	保健管理センター	地域協学センター	教育推進・学生支援機構	学術研究・産学官連携推進本部	高等研究院	情報連携統括本部	グローカル推進機構	糖鎖生命コア研究所
学術変革領域研究(A)（公募研究）	2	5,200	1,560				1													1				
基盤研究（A）	12	106,800	32,040	2					3	3			1	1	1									1
基盤研究（B）	60	216,700	65,010	1		1	14		20	18										4				2
基盤研究（C）	228	224,150	67,200	33	8	14	36	27	52	33	5					6	3	1		2		3		5
挑戦的研究（開拓）	4	27,400	8,220						1	2										1				
挑戦的研究（萌芽）	14	25,200	7,560	2			4		1	4										1				2
若手研究	62	62,100	18,630	4	2	1	20	17	5	7									1	4				1
研究活動スタート支援	11	10,400	3,120					4	4	1								1		1				
奨励研究	5	2,160	0				1	3					1											
特別研究員奨励費	14	20,000	3,090				2		1	2		2	6							1				
国際共同研究強化(B)海外連携研究	3	15,600	4,680	1											1					1				
総計	415	715,710	211,110	43	10	16	78	51	87	70	5	2	8	1	2	6	3	2	1	16	0	3	11	

※令和６年度交付内定金額

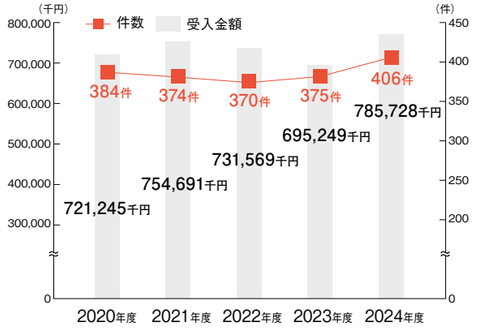
■ 岐阜大学発ベンチャー起業数の推移



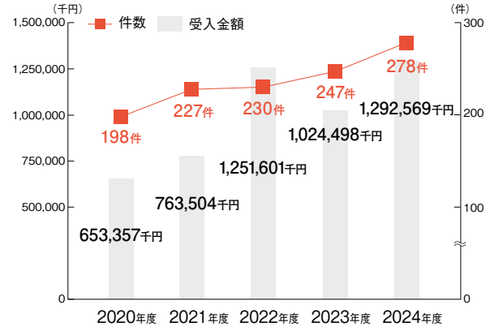
起業数は,文部科学省の大学発ベンチャーの定義に基づき独自に調査をした数字です。
すでに廃業・解体した企業も含みます。

■ 共同研究・受託研究

共同研究



受託研究



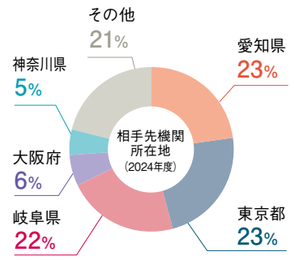
共同研究・受託研究部局別受入実績

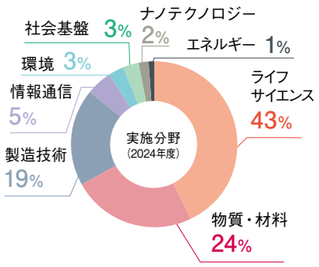
2024年度（金額単位：千円）

部局	共同研究		受託研究	
	受入件数	受入金額	受入件数	受入金額
教育学部	4	6,011	0	0
地域科学部	2	1,280	0	0
医学系研究科・医学部	21	106,745	40	313,938
医学部附属病院	19	10,500	129	45,413
工学部	170	281,956	49	418,489
応用生物科学部	82	81,146	21	127,595
社会システム経営学環	1	0	0	0
連合獣医学研究科	1	1,000	3	8,200
連合農学研究科	11	12,675	0	0
連合創薬医療情報研究科	5	33,473	2	10,010
高等研究院	77	204,598	24	271,908
航空宇宙生産技術開発センター	7	37,693	1	71,136
糖鎖生命コア研究所	5	6,051	6	24,960
地域協学センター	0	0	3	920
情報連携推進本部	1	2,600	0	0
合計	406	785,728	278	1,292,569

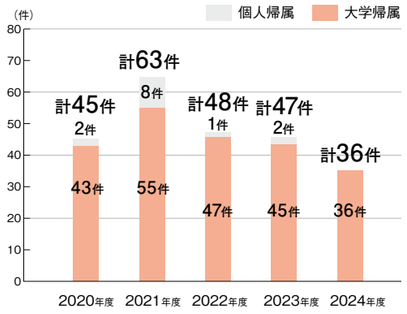
複数部局での合同契約については，受入金額の多い部局で１件として計上されるため，０件になる場合がある。

共同研究実績

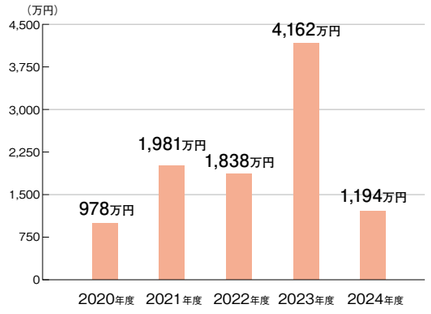




■ 発明届



■ ライセンス等収入

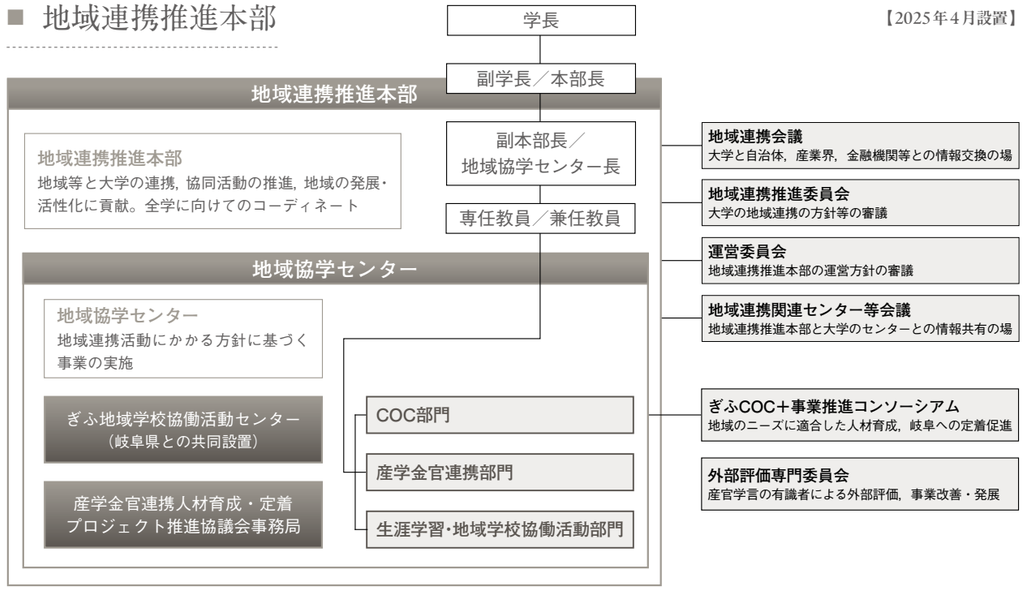


社会連携 For society

貢献する岐阜大学

■ 地域連携推進本部

【2025年4月設置】



令和6年10月に岐阜大学は，岐阜県及び県内全ての自治体と包括連携協定を締結した。
これを契機に，地域社会の要請と期待に応え，ともに未来の社会を創るため，地域と大学との連携・協働活動をさらに強固に推進する運営支援組織として，「地域連携推進本部」を令和7年4月1日に設置した。地域連携推進本部は，以下のミッションとビジョンを掲げ，社会連携・産学連携を通じて，産官学共創教育の推進とともに地域創生の一役を担う。

【ミッション】
地域の発展・活性化を目標に，地域社会の要請と期待に積極的に応えるため，自治体・企業・市民団体等と有機的に連携し，地域と大学・学内部局等との連携・協働活動を推進する駆動的役割を担う。
【ビジョン】
・地域社会の課題解決に貢献する「地（知）の拠点」を目指し，大学が地域と連携して地域共創を戦略的に推進するシンクタンクとして機能する。
・大学と地域のネットワークを強化するため，地域社会と大学の橋渡し役として機能する。
・地域連携にかかる情報を集約・一元化し，全学の地域連携活動を推進するコーディネーター・調整役として機能する。

■ 地域協学センター

地域協学センターは，地域連携推進本部の中核組織として，地域創生・地域活性化に貢献する大学の実現に向けて，地域を知り，地域の課題を見つけ，地域の課題解決に向けて貢献できる「次世代地域リーダー」の育成（次世代地域リーダー育成プログラム），地域の課題解決に向けた研究の推進（地域志向学研究），地域の課題解決に向けて多様な人びとが対話し，新たな価値を創造する「対話・共創の場」づくり（ぎふフューチャーセンター）等に取り組んでいる。さらに，岐阜県と共同で設置した「ぎふ地域学校協働活動センター」におけるコーディネーターや「社会教育士」の育成，岐阜県や岐阜県教育委員会との連携による高大連携事業も展開している。

■ 地方自治体との協定

本学は，地域社会の発展と人材育成に寄与することを目的に，地方自治体と連携に関する協定を締結して，多様な分野で連携活動を積極的に進めている。

包括連携協定 岐阜県及び県内 43 全自治体と締結済

自治体等	締結日	主な連携活動＊
大垣市	2006.3.31	ものづくり岐阜テクノフェアの開催 ／ 大垣市・岐阜大学連絡調整会議の実施
各務原市　各務原商工会議所	2007.10.10	宇宙工学講座実施 ／ サマースクール（COC+ 事業の参加大学共通プログラム）の実施
羽島市	2008.2.26	地域リーダー実践（上級）（次世代地域リーダー育成プログラム上級段階科目）の実施 サマースクール（COC+ 事業の参加大学共通プログラム）の実施
岐阜県	2008.3.28	岐阜県・岐阜大学連携推進会議の実施 ／ 産学金官連携人材育成・定着プロジェクトの実施 自治体協働型インターンシップの実施 ／ ぎふ地域学校協働活動センター事業の実施 ぎふフューチャーセンターの実施 ／ 地域協学センター公開講座講師派遣 こども計画策定監修 ／ ぎふ宇宙プロジェクト研究会 次世代環境リーダー育成に係る連携授業の実施
関市	2008.9.16	サマースクール（COC+ 事業の参加大学共通プログラム）の実施
美濃市	2008.12.17	サマースクール（COC+ 事業の参加大学共通プログラム）の実施 ／ 地域協学センター公開講座講師派遣
岐阜市	2009.2.27	地域コーディネーター研修プログラムによる市職員の受け入れ SPARC-GIFU　市内に地域ラボ設置 ／ 地域協学センター公開講座講師派遣 生涯学習推進計画策定監修 ／ 岐阜市未来のまちづくり懇談会委員 岐阜市まちづくりサポートセンター運営 ／ 岐阜市住民自治推進委員会委員
高山市	2009.4.17	飛騨高山学会出展 ／ SPARC-GIFU　市内に地域ラボ設置
御嵩町	2009.10.28	低炭素まちづくり（太陽光発電の利活用など）への協力
郡上市	2012.3.19	地域リーダー実践（上級）（次世代地域リーダー育成プログラム上級段階科目）の実施 サマースクール（COC+ 事業の参加大学共通プログラム）の実施 地域協学センターシンポジウム講師派遣 ／ 部局間協定締結
美濃加茂市	2015.9.18	ヤギによる緑地再生共同研究 ／ 地域創生コーディネーター派遣
北方町	2015.11.20	教育，文化及びスポーツの振興に関する事業の実施
中津川市	2015.12.15	地域リーダー実践（上級）（次世代地域リーダー育成プログラム上級段階科目）の実施 SPARC-GIFU　市内に地域ラボ設置
揖斐川町	2016.1.19	揖斐川町小津地区の活性化支援 ／ 岐大生住んでみようプロジェクトの実施
岐南町	2016.1.29	総合戦略審議会 ／ 公共交通政策の指導助言
本巣市	2016.5.27	人材の育成に関する事業の実施
山県市	2016.7.1	地域学校協働活動の推進
土岐市	2016.8.2	地域リーダー実践（上級）（次世代地域リーダー育成プログラム上級段階科目）の実施 土岐市美濃焼 PR プロジェクト指導・助言
養老町	2016.10.14	生涯学習基本構想作成支援
八百津町	2016.12.1	八百津町山村エリアの活性化支援 ／ 八百津をもっと知りたくなるしくみづくり事業
笠松町	2017.4.17	笠松歴史未来会館へ多面体づくり出展 ／ リバーサイドカーニバル出展
下呂市	2017.11.24	地域療育システム事業への協力
白川村	2018.1.22	白川郷学園の学力向上に向けた連携
多治見市	2018.10.9	多治見市ながせ商店街の活性化支援
海津市	2019.3.4	教育・文化の振興に関する事業の実施
瑞穂市	2019.12.24	人材育成及び地域活性化に関する事業の実施 ／ 瑞穂市まちづくり基本条例推進委員会委員 住民自治基本条例改正にかかる指導・助言
飛騨市	2020.2.28	サマースクール（COC+ 事業の参加大学共通プログラム）の実施
瑞浪市	2020.3.10	地域の活性化に関する事業の実施 ／ 地方自治体における政策研究 ぎふフューチャーセンターの実施 ／ 平山一日限りカフェ開催（域学連携推進事業）
輪之内町	2021.10.22	防災及び環境施策の支援・助言 輪之内町における「ゼロカーボンシティ」推進及び環境人材育成事業
大野町	2022.6.29	小中学校の適正規模・適正配置に関する検討 ／ 大野の太鼓判認定委員会委員
坂祝町	2022.10.5	コミュニティ・スクールへの助言・評価・指導
関ケ原町	2022.10.31	関ケ原診療所を中心とした地域医療の確保
安八町	2023.10.31	公共交通に関する指導・助言 ／ ふれあい祭り出展
垂井町	2023.12.12	運動公園に関する指導・助言
神戸町	2024.1.22	町職員への地域コーディネーター委嘱
池田町	2024.2.13	イベント開催にともなう学生参加
白川町	2024.3.14	住環境に関する受託研究 ／ 地域学校協働活動の促進に係る支援
川辺町	2024.3.26	防災及びまちづくり，小学校再編に係る支援・指導
恵那市	2024.4.11	まちなかオープンカレッジの実施
東白川村	2024.6.19	関係人口・交流人口に関する連携
七宗町	2024.8.1	総合計画策定に係る審議
富加町	2024.9.19	古墳調査検討委員会委員 ／ 彫刻に関する相談
可児市	2024.10.1	生涯学習コーディネーター養成講座講師

＊ここに挙げる活動の他，各種審議会，委員会等の委員への就任及び各種研修講師として本学教員が多数協力している。

包括連携協定後の個別締結

自治体等	締結日	主な連携活動＊
揖斐川町	2024.2.26	岐大生住んでみようプロジェクト

地域連携事業の推進

2014 年度からは，大学 COC 事業の一環として，学際的に複数の学問の「協働」，分野・部局横断的な連携の強化，自治体・NPO 団体・地域団体・民間事業者等との「協学」を進めながら，地域の課題解決に貢献する積極的な取り組みを「地域志向学研究」として位置付け推進している。

○岐阜県と共同で「ぎふ地域学校協働活動センター」を設置

■ 公開講座

公開講座

本学は，教育研究の成果を広く社会に開放し，地域社会の教育文化の向上に資することを目的に，各学部及びセンターが様々な内容の公開講座を実施している。また，小・中・高校生を対象とした講座では，公開講座のほかに，ものづくり講座などの体験講座を開催している。2024 年度の開講数は次のとおりである。

○一般市民・社会人を対象とした公開講座　15講座
○小・中・高校生を対象とした公開講座　22講座

■ シンポジウム・フォーラム

岐阜大学シンポジウム

本学は，地域の知の拠点として，大学の取り組み及びその成果について，岐阜大学の研究成果とともに最新の情報を社会に発信するため，講演会を開催している。

岐阜大学フォーラム

大学を活性化するため，優れた学問を発展させてきた一流の研究者による講演会を開催している。

■ 市民大学講座

岐阜大学シティカレッジプログラム

本学は，「ぎふ中日文化センター」において，提携講座「岐阜大学シティカレッジプログラム」を開催している。この講座は，本学と中日新聞社が共同で行う“市民大学講座”で，本学の教員が社会や暮らしに密着したテーマを取り上げ，楽しく分かりやすく講義している。

■ 高大連携

本学は，地元を中心とした高等学校との連携を図り，高校生が様々な研究分野への理解を深め，学問への動機づけや学習意欲の喚起を目的とした事業の実施及び高等学校関係者との意見交換等を通じて高校・大学相互に教育の現状理解を深めるための活動を行っている。

〔2024年度実績〕
○高等学校への出前講義 76講座
（2024年度は，人文科学34，社会科学17，理学36，応用科学92，医療・福祉31，総合23，計233回開催した。）
○ネットワーク大学コンソーシアム岐阜（高大連携・情報発信部会）
第1回高大連携セミナー（2024年10月23日開催）
○宇宙工学講座
参加者：県内高校・高等専門学校18校・86人
開講式（2024年6月23日開催）
講座全9回+見学ツアー（2024年7月3日～11月13日開催）
閉講式（2024年12月21日開催）
○スーパーハイスクールセッション
参加者：県内高校17校・44人
第1回　グループワーク（2024年9月7日開催）
第2回　グループワーク（2024年10月5日開催）
第3回　成果発表会（2024年12月8日開催）

■ 環境への取り組み

本学は，岐阜大学環境方針に基づき，
環境に配慮した特色ある諸活動を継続的に展開し，
地域社会に貢献し，地域とともにありつづける大学として
2009 年 11 月 27 日に「環境ユニバーシティ」を宣言しました。

【岐阜大学環境方針】

岐阜大学は，本学が掲げる理念を達成するとともに，「環境ユニバーシティ」としての取組みを継続発展させ，
環境に配慮した大学環境を創り出すとともに環境を担う優れた人材育成に努めます。

【基本方針】

1．岐阜大学の特長を生かした環境教育・研究を推進します。
2．教育・研究活動の環境側面を常に認識し，環境影響を評価し，汚染の予防に努めます。
3．省エネルギー，省資源を推進し環境負荷の一層の軽減に努めます。
4．教育・研究に関わる順守義務の適合に努めます。
5．環境パフォーマンスを向上させるため，環境マネジメントシステムの継続的な改善を図ります。
6．教育・研究を通して，気候変動の緩和・適応及び生物多様性の保護に寄与します。
7．毎年度活動目標を設定し，達成していきます。

岐阜大学は，この環境方針を学内外に周知し，広く公開します。

岐阜大学は，全学でISO14001を認証取得しています。（附属病院を除く）

本学は，環境マネジメントシステムの国際規格であるISO14001 を，2003年に地域科学部で認証取得してから，
順次，その認証範囲を拡大し，2013年には，附属病院を除く全学で認証取得しました。
2016年には，新規格であるISO14001:2015の認証を取得し，新規格に基づいた運用を行っています。

環境報告書を発行しています。

環境負荷の状況や環境配慮の取り組みを
公表することを目的に，毎年９月に作成しています。

学生編集委員による
研究室インタビュー

岐阜大学環境月間（毎年 11 月）

「環境ユニバーシティ」宣言日（2009年11月27日）に因んで，毎年11月を岐阜大学環境月間と定め，さまざまな関連行事を行っています。

学生・教職員による
クリーンキャンパス

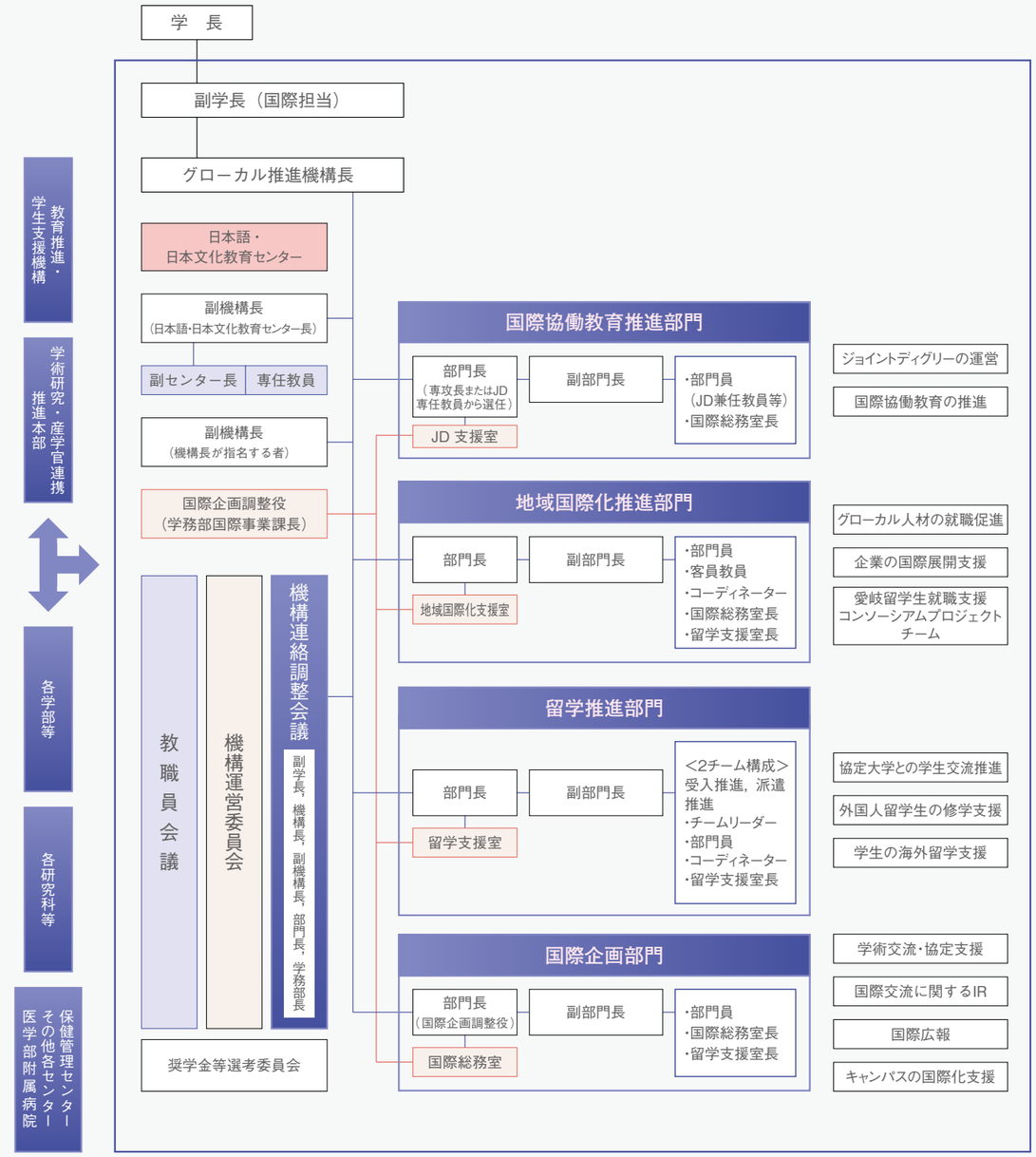
エコポスター・川柳表彰

学生による
ISO14001の内部環境監査

「ISO14001 内部環境監査員養成研修」
修了証書授与式

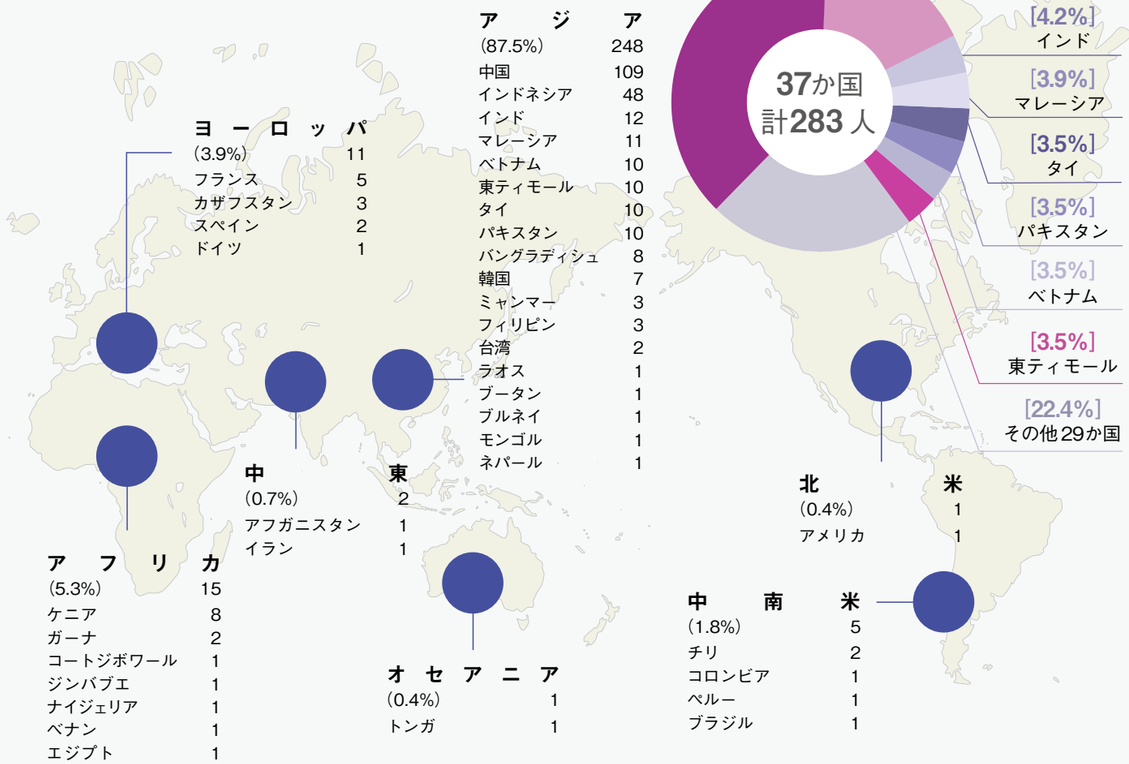
グローカル推進機構 (Gifu University Organization for Promotion of Glocalization : GU-GLOCAL)

［体制図］

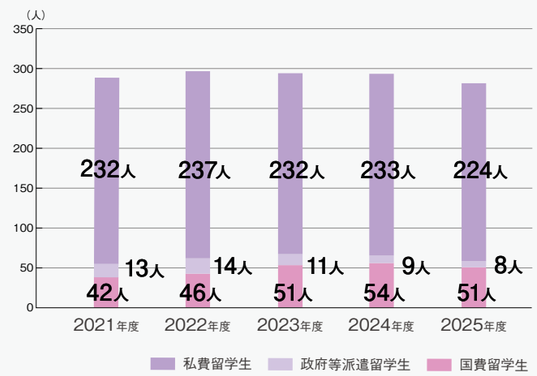


留学生受入・派遣状況

国（地域）別外国人留学生数 (2025年5月1日現在)（人）



外国人留学生受入れ数の推移 (各年5月1日時点)



交換留学

（人）

国　　名	大　学　名	派遣年度				受入年度			
		2021	2022	2023	2024	2021	2022	2023	2024
中　　国	広西大学						1	1	
	電子科技大学						1	2	2
	華僑大学						3	3	3
	江南大学							2	2
	吉林大学					2 （うち1名オンライン）	3	1	
	同済大学			1					
	内蒙古師範大学							2	1
韓　　国	ソウル科学技術大学校							2	1
	高麗大学校	1							
	木浦大学							1	
タイ	カセサート大学							1	2
マレーシア	マレーシア国民大学		1					1	
エジプト	ベンハー大学							2	1
インド	インド工科大学グワハティ校								1
オーストラリア	シドニー工科大学		3	1	3				
	グリフィス大学			1	3				
ドイツ	エルフルト大学	2							
	バイロイト大学				2				
スペイン	サラマンカ大学						1	1	2
アメリカ	ノーザンケンタッキー大学	2	2	2	3			2	1
	サンディエゴ州立大学	1	1	1					
	ユタ州立大学			1	1				
カナダ	レイクヘッド大学		1						
フランス	リール大学					3	7	4	3
合　計		6	8	7	12	5	16	25	19

夏期短期留学（サマースクール）

（人）

国　　名	大　学　名	派遣年度				受入年度			
		2021（オンライン）	2022	2023	2024	2021（オンライン）	2022	2023	2024
韓　　国	ソウル科学技術大学校	2					受入中止		2
オーストラリア	グリフィス大学	3	31	37	28				
アメリカ	ノーザンケンタッキー大学					1		2	5
	カリフォルニア大学デービス校				3				
カナダ	アルバータ大学	22	6	10	21				
中　　国	広西大学							4	2
マレーシア	マレーシア国民大学					4		1	
合　計		27	37	47	52	5		7	9

※ 2022 年度の受入は，新型コロナウイルス感染症に起因し中止。

■ 学術交流協定締結大学等一覧

大学間協定（20 か国 51 大学）

2025 年 5 月 1 日現在

機　関　名	国　　名	協定締結日
カンピーナス大学	ブ ラ ジ ル	1984. 8.27
サンディエゴ州立大学	ア メ リ カ	1985. 5. 7
浙江大学	中　　国	1986. 4.21
広西大学	中　　国	1986. 4.24
電子科技大学	中　　国	1986. 7.21
江南大学	中　　国	1986. 9. 3
ノーザンケンタッキー大学	ア メ リ カ	1990. 9.26
ソウル科学技術大学校	韓　　国	1992. 3.19
グリフィス大学	オーストラリア	1995. 3. 3
ユタ州立大学	ア メ リ カ	1997. 5.29
ハノイ工科大学	ベ ト ナ ム	1998. 6.26
カセサート大学	タ　　イ	1999. 8. 5
内蒙古農業大学	中　　国	2000. 8. 8
シドニー工科大学	オーストラリア	2000. 8.14
パンノン大学	ハ ン ガ リ ー	2001. 3. 2
アンダラス大学	インドネシア	2001. 4.23
バングラデシュ農業大学	バングラデシュ	2001. 8.23
エルフルト大学	ド　イ　ツ	2002.12. 4
吉林大学	中　　国	2003. 5.20
チェンマイ大学	タ　　イ	2003. 8. 4
ダッカ大学	バングラデシュ	2004. 6.17
キングモンクット工科大学トンブリ校	タ　　イ	2005. 1.10
華僑大学	中　　国	2005. 3.29
同済大学	中　　国	2006. 3.16
ランポン大学	インドネシア	2006. 4.25
内蒙古大学	中　　国	2007. 2. 6

機　関　名	国　　名	協定締結日
バイロイト大学	ド　イ　ツ	2008. 8.22
ベンハー大学	エ ジ プ ト	2009. 3.18
高麗大学校	韓　　国	2010. 1.15
カウナス工科大学	リトアニア	2010. 3. 8
ボゴール農科大学	インドネシア	2010.12. 2
内蒙古師範大学	中　　国	2011. 6. 8
ヴィータウタス・マグヌス大学	リトアニア	2012. 1.19
ガジャマダ大学	インドネシア	2012. 9.13
スブラス・マレット大学	インドネシア	2013. 7. 8
パリ・サクレー大学	フ ラ ン ス	2014.12.16
インド工科大学グワハティ校	イ　ン　ド	2014. 9.21
マレーシア国民大学	マレーシア	2016. 9.21
マギル大学	カ　ナ　ダ	2017. 3. 8
アルバータ大学	カ　ナ　ダ	2017. 3.21
レイクヘッド大学	カ　ナ　ダ	2017.10.11
マリアノ・マルコス州立大学	フィリピン	2018. 9.10
フエ大学	ベ ト ナ ム	2018.11.12
アッサム大学	イ　ン　ド	2018.11.20
サラマンカ大学	ス ペ イ ン	2018.11.26
リール大学	フ ラ ン ス	2020. 4. 2
南フロリダ大学	ア メ リ カ	2020.12.15
ブラヴィジャヤ大学	インドネシア	2021. 2.23
バンドン工科大学	インドネシア	2022. 9.26
ラバト国際大学	モ ロ ッ コ	2024. 7. 8
シーナカリンウィロート大学	タ　　イ	2025. 3.27

部局間協定

2025年5月1日現在

機　関　名	国　　名	協定締結日	協定部局
チュラロンコン大学　理学部	タ　　イ	1994.3.15	応用生物科学部
コンケン大学　農学部	タ　　イ	2000.3.27	応用生物科学部
コンケン大学　学部間共同開発研究所	タ　　イ	2000.3.27	応用生物科学部
浙江大学　医学院	中　　国	2000.12.4	医　学　部
コンケン大学　医学部	タ　　イ	2000.12.18	医　学　部
国立全南大学校　工学部	韓　　国	2002.2.6	工　学　部
中国科学院水利部水土保持研究所	中　　国	2008.8.12	インフラマネジメント技術研究センター
国立畜医科学検疫院畜医科学研究所	韓　　国	2008.11.4	応用生物科学部
忠北大学校　医学部	韓　　国	2009.4.17	医学部
中国水利水電科学研究院岩土工程研究所	中　　国	2009.7.24	インフラマネジメント技術研究センター
カフル・エル・シェイク大学　畜医学部	エ ジ プ ト	2009.11.15	連合創薬医療情報研究科
柳韓大学校　工学系列	韓　　国	2010.9.29	工　学　部
ベングル大学　数学自然科学部	インドネシア	2011.7.20	工　学　部
サー・パラシュラムブ・カレッジ	イ　ン　ド	2012.9.17	工　学　部
モンゴル国立大学　地理地質学部	モ ン ゴ ル	2012.10.29	応用生物科学部
チュラロンコン大学　理学部	タ　　イ	2012.12.6	連合農学研究科
忠南大学校　工学部	韓　　国	2013.1.18	工　学　部
マドリード・カルロス三世大学　工学部	ス ペ イ ン	2013.7.9	工　学　部
EMC2 クラスター・IRT ジュール・ヴェルヌ	フ ラ ン ス	2014.3.13	複合材料研究センター
ドルトムント工科大学　機械工学部	ド　イ　ツ	2014.6.23	工　学　部
マンダレー大学　自然科学系学部	ミャンマー	2014.8.25	工　学　部
ヤダナボン大学　自然科学系学部	ミャンマー	2014.12.16	工　学　部
メティラ大学　自然科学系学部	ミャンマー	2014.12.16	工　学　部
デダンキマティ工科大学　工学部	ケ　ニ　ア	2014.12.16	工　学　部
トゥンク・アブドゥル・ラーマン大学　理工学部	マレーシア	2014.12.16	工　学　部
慶北大学校　工学部	韓　　国	2015. 2 .27	工　学　部
アメリカ国立衛生研究所・国立心肺血液研究所	ア メ リ カ	2015.3.18	工　学　部
バーデン・ヴュルテンベルク州立太陽エネルギー・水素研究センター	ド　イ　ツ	2015.3.20	工　学　部
アーカンソー大学フォートスミス校	ア メ リ カ	2015.6.8	地域科学部
チュイロイ大学	ベ ト ナ ム	2015.6.25	連合農学研究科
ブンハッタ大学	インドネシア	2015.7.30	工　学　部
ガーナ大学　基礎応用科学部	ガ　ー　ナ	2015.8.20	応用生物科学部
ガーナ大学　基礎応用科学部	ガ　ー　ナ	2015.8.20	連合畜医学研究科・共同畜医学研究科
バダン州立大学　数学自然科学部	インドネシア	2015.9.18	工　学　部
カールスルーエ教育大学	ド　イ　ツ	2015.10.21	教 育 学 部
クラクフ工科大学　環境電力工学部	ポーランド	2015.11.30	工　学　部
チュラロンコン大学　理学部	タ　　イ	2015.12.2	工　学　部
山西師範大学	中　　国	2015.12.7	教 育 学 部
ハワイ大学　医学部	ア メ リ カ	2016.8.24	医　学　部
東ティモール国立大学　工学部	東ティモール	2016.8.29	工学部・地方創生エネルギーシステム研究センター
南フロリダ大学　医学学群	ア メ リ カ	2016.10.20	医学部・保健管理センター
ラジシャヒ大学　農学部	バングラデシュ	2016.12.27	応用生物科学部
南京師範大学　エネルギー機械工学院	中　　国	2017.7.17	工　学　部
ダゴン大学　自然科学系学部	ミャンマー	2017.7.21	工　学　部
南太平洋大学　自然科学・工学・環境学群	フ ィ ジ ー	2017.12.1	応用生物科学部
インドネシア・イスラム大学　土木工学・計画学部，数学・自然科学部	インドネシア	2018.2.23	工　学　部
ラオス国立大学　林学部	ラ　オ　ス	2018.3.21	連合農学研究科
カザン連邦大学　環境科学部	ロ　シ　ア	2018.5.18	応用生物科学部
ブルネイ・ダルサラーム大学　理学部	ブ ル ネ イ	2018.6.15	工　学　部
カザン医学アカデミー	ロ　シ　ア	2018.12.10	応用生物科学部
ハンガリー科学アカデミー農学研究センター	ハンガリー	2018.12.10	応用生物科学部
ザンビア大学　工学部	ザ ン ビ ア	2019.1.30	工　学　部
ソウル大学校　医科大学	韓　　国	2019.4.11	医　学　部
シカゴ大学　医学部	ア メ リ カ	2019.6.3	医　学　部
台湾国立高雄科技大学　先端金型研究開発センター	台　　湾	2019.12.27	地域連携スマート金型技術研究センター
リアオ大学　教員養成・教育学部	インドネシア	2020.3.3	工　学　部
長庚大学　工学部	台　　湾	2020.3.18	工　学　部
タイビン医科薬科大学　医・薬科学技術センター	ベ ト ナ ム	2020.3.31	科学研究基盤センター
タイビン医科薬科大学　医・薬科学技術センター	ベ ト ナ ム	2020.3.31	連合創薬医療情報研究科
国立中央大学　文学院	台　　湾	2021.1.14	地域科学部
タイ国立電子コンピューター技術研究センター	タ　　イ	2023.1.29	工　学　部
ジョモケニヤッタ農工大学	ケ　ニ　ア	2023.8.1	工　学　部
キングモンクット工科大学ラカバン校　産業教育学部	タ　　イ	2023.8.9	連合農学研究科
ラジャスタン大学　生命科学研究科	イ　ン　ド	2024.6.27	連合農学研究科
リール大学　生物学健康科学研究科	フ ラ ン ス	2024.9.5	連合農学研究科
ヴィータウタス・マグヌス大学　農業アカデミー	リトアニア	2024.9.8	連合農学研究科
トリノ大学	イ タ リ ア	2025.3.18	連合創薬医療情報研究科
マッコーリー大学	オーストラリア	2025.4.1	糖鎖生命コア研究所

研究者受入・派遣状況

外国人研究者受入数，来訪者数

2024 年度

外国人研究者	14 人
外国人来訪者	106 人

海外渡航者数

2024 年度

出　　張	415 人
研　　修	18 人

＊非常勤職員を除く

国際交流会館

施　設　名	施設の概要		
	宿　泊　室		そ　の　他
国際交流会館 （岐阜市柳戸１番１）	A　　棟	単　身　室　31	会議室・研修室，談話室
		夫　婦　室　2	
		家　族　室　3	
	B　　棟	単　身　室　38	多目的ホール，和室
		夫　婦　室　12	
		家　族　室　4	
	C　　棟	単　身　室　11	
		夫　婦　室　2	
		家　族　室　4	

日本語・日本文化教育センター

外国人留学生への日本語・日本文化に関する教育，日本人学生への国際理解に関する教育を行っている。さらに，全学共通教育における日本人学生と外国人留学生を対象とした異文化交流に関する授業も実施し，留学生交流を中心に大学の国際化に寄与している。
またセンターには，「交流ラウンジ」があり，ラウンジでは外国人留学生と日本人学生との交流や学習，チューターによる学習の支援，留学等の情報収集の場として多様な活動を通し，本学の国際交流の促進を図っている。

海外オフィス

本学では，外国人学生・研究者との交流の促進を目的として，海外オフィスを設置している。

岐阜大学上海オフィス（中国）

201315 中華人民共和国上海市浦東新区御青路 999-45
電話：86-21-58124777
FAX：86-21-58124778

岐阜大学スブラス・マレット大学内オフィス（インドネシア）

Sebelas Maret University,
Jalan. Ir. Sutami 36A, Surakarta 57126
Indonesia

岐阜大学ダッカ大学内オフィス（バングラデシュ）

University of Dhaka,
Ramna, Dhaka 1000, Bangladesh

岐阜大学広西大学内オフィス（中国）

広西大学
中国広西南寧市大学東路 100 号

組　織　Organization

■ 学長・副学長等一覧

学長・副学長等	
学長	吉田　和弘
副学長（筆頭）（総括・研究・IR・産学官連携・地域創成・スタートアップ・財務担当）	王　志剛
副学長（地域連携（SPARC 等）・総務・人事・ハラスメント・施設担当）	杉山　誠
副学長（企画・評価・情報基盤・DU・法務・公正研究・リスク管理担当）	神原　信志
副学長（教育・学生支援・地域連携（SPARC 等）（副）担当）	益子　典文
副学長（多様性・ジェンダー（男女共同参画）・人権・広報・ブランディング・基金・図書館担当）	大藪　千穂
副学長（国際展開・多様性・ジェンダー（男女共同参画）（副）・図書館（副）担当）	リム　リーワ
医学部附属病院長	秋山　治彦

教育研究評議会評議員			
東海国立大学機構長	松尾　清一		
大学総括理事（岐阜大学長）	吉田　和弘		
副学長（筆頭）（総括・研究・IR・産学官連携・地域創成・スタートアップ・財務担当）	王　志剛		
副学長（地域連携（SPARC 等）・総務・人事・ハラスメント・施設担当）	杉山　誠		
副学長（企画・評価・情報基盤・DU・法務・公正研究・リスク管理担当）	神原　信志		
副学長（教育・学生支援・地域連携（SPARC 等）（副）担当）	益子　典文		
副学長（多様性・ジェンダー（男女共同参画）・人権・広報・ブランディング・基金・図書館担当）	大藪　千穂		
副学長（国際展開・多様性・ジェンダー（男女共同参画）（副）・図書館（副）担当）	リム　リーワ		
教育学部長	山田　雅博	教育学部　教授	坂本　一也
地域科学部長	内田　勝	地域科学部　教授	橋本永貢子
工学部長	植松　美彦	医学部　教授	井關　敦子
応用生物科学部長・自然科学技術研究科長	西津　貴久	工学部　教授	小林　孝一
社会システム経営学環長	三井　栄	応用生物科学部　教授	山田　邦夫
医学系研究科長	牛越　博昭	社会システム経営学環　教授	篠田　朝也
共同獣医学研究科長・連合獣医学研究科長	志水　泰武	医学系研究科　教授	前川　洋一
連合農学研究科長	平松　研	教育推進・学生支援機構　教授	福岡　大輔
連合創薬医療情報研究科長	上田　浩	学術研究・産学官連携推進本部　教授	矢部　富雄
医学部附属病院長	秋山　治彦	グローカル推進機構　教授	橋本　慎吾
糖鎖生命コア研究所長	門松　健治	地域連携推進本部　教授	益川　浩一
保健管理センター長	山本眞由美	医学系研究科　教授	道上　知美
グローカル推進機構長	小山　博之	応用生物科学部　教授	山本　朱美

学部長・センター長等		
教育学部	学部長	山田　雅博
	副学部長	今村　光章
	副学部長	杉森　弘幸
	副学部長	坂本　一也
	附属小中学校統括長	別府　哲
	附属小中学校長	西野　美佳
	附属特別支援教育センター長	平澤　紀子
	附属学習協創開発研究センター長	益子　典文
地域科学部	学部長	内田　勝
	副学部長	橋本永貢子
	副学部長	合掌　顕
医学系研究科・医学部	研究科長（学部長） 附属地域医療医学センター長	牛越　博昭
	副研究科長（副学部長）	前川　洋一
	副研究科長（副学部長）	大西　秀典
	副学部長	井關　敦子
	医学教育開発研究センター長	西城　卓也
	附属量子医学イノベーションリサーチセンター長	松尾　政之
医学部附属病院	病院長	秋山　治彦
	副病院長	土井　潔
	副病院長	清水　雅仁
	副病院長	古家　琢也
	副病院長	熊田　恵介
	副病院長	深尾亜由美
工学部	学部長	植松　美彦
	副学部長	伊藤　貴司
	副学部長	小林　孝一
	副学部長	伴　隆幸
	附属インフラマネジメント技術研究センター長	沢田　和秀
	附属応用気象研究センター長	吉野　純
	附属プラズマ応用研究センター長	上坂　裕之
	附属宇宙研究利用推進センター長	宮坂　武志
	ものづくり技術教育支援センター長	山田　貴孝
応用生物科学部	学部長	西津　貴久
	副学部長	海野　年弘
	副学部長	柳瀬　笑子
	副学部長	山田　邦夫
	附属岐阜フィールド科学教育研究センター長	大場　伸也
	附属動物病院長	渡邊　一弘
	附属野生動物管理学研究センター長 附属共同獣医学教育開発推進センター長	伊藤　直人
	附属家畜衛生地域連携教育研究センター長	浅井　鉄夫
社会システム経営学環	学環長	三井　栄
	副学環長	篠田　朝也

大学院	自然科学技術研究科長	西津　貴久
	共同獣医学研究科長 連合獣医学研究科長	志水　泰武
	連合農学研究科長	平松　研
	連合創薬医療情報研究科長	上田　浩
高等研究院	研究院長	王　志剛
	副研究院長	矢部　富雄
	副研究院長	田中香お里
	副研究院長	二上　英樹
	地域減災研究センター長	小山　真紀
	微生物遺伝資源保存センター長	田中香お里
	Guコンポジット研究センター長	仲井　朝美
	地域連携スマート金型技術研究センター長	吉田　佳典
	地方創生エネルギーシステム研究センター長	上宮　成之
	航空宇宙生産技術開発センター長	酒井　昭仁
	人工知能研究推進センター長	加藤　邦人
	Coデザイン研究センター長	三井　栄
	先制食未来研究センター長	矢部　富雄
	One Medicineトランスレーショナルリサーチセンター長	秋山　治彦
	環境社会共生体研究センター長	原田　守啓
	3次元積層造形活用技術開発センター長	新川　真人
	科学研究基盤センター長	二上　英樹
	全学技術センター長	王　志剛
糖鎖生命コア研究所	研究所長	門松　健治
保健管理センター	センター長	山本眞由美
図書館	図書館長	大藪　千穂
	医学図書館長	長岡　仁
教育推進・学生支援機構	機構長	益子　典文
	副機構長	福岡　大輔
	副機構長	髙橋　周平
学術研究・産学官連携推進本部	本部長	王　志剛
グローカル推進機構	機構長	小山　博之
情報連携推進本部	本部長	神原　信志
地域連携推進本部	本部長	杉山　誠
	地域協学センター長	益川　浩一

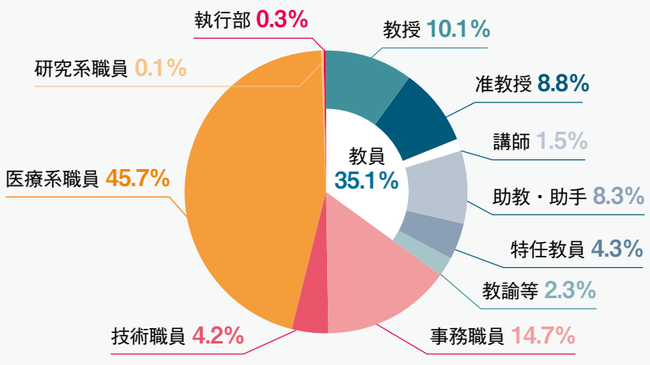
■ 構成員数

2025年5月1日現在

部局	執行部	教員							職員				合計
		教授	准教授	講師	助教	助手	特任教員	附属学校教諭	事務	技術	医療	研究	
運営局	7 (2)								168 (73)	17 (3)			192 (78)
教育学部		37 (6)	31 (8)		5 (1)				17 (10)				90 (25)
教育学研究科		4 (1)	4 (0)				3 (0)						11 (1)
教育学部附属小中学校								56 (17)					56 (17)
地域科学部		14 (2)	10 (1)	1 (0)	10 (4)				8 (6)				43 (13)
医学部		8 (4)	10 (9)		15 (14)	1 (1)	5 (2)						39 (30)
医学系研究科		29 (2)	26 (6)	5 (1)	33 (9)		46 (16)		33 (12)	3 (3)		1 (1)	176 (50)
医学部医学教育開発研究センター		1 (0)			2 (1)		2 (2)						5 (3)
医学部附属病院		7 (0)	12 (0)	30 (2)	79 (17)				91 (42)	13 (6)	1,122 (817)		1,354 (884)
工学部		75 (2)	56 (1)		29 (2)		3 (0)		22 (12)				185 (17)
応用生物科学部		44 (3)	38 (11)		13 (4)		4 (0)		22 (9)	43 (32)	1 (1)		165 (60)
社会システム経営学環		6 (1)	7 (1)		1 (1)		0 (0)		3 (0)				17 (3)
連合農学研究科		1 (0)											1 (0)
連合獣医学研究科		1 (0)											1 (0)
連合創薬医療情報研究科			3 (1)				2 (0)						5 (1)
教育推進・学生支援機構			4 (1)				8 (2)						12 (3)
学術研究・産学官連携推進本部							4 (1)						4 (1)
高等研究院		7 (0)	11 (4)		4 (1)		23 (4)			27 (3)			72 (12)
糖鎖生命コア研究所		8 (1)	3 (0)		5 (1)		3 (0)					1 (0)	20 (2)
グローカル推進機構		3 (2)			2 (1)								5 (3)
保健管理センター		2 (1)	1 (0)		1 (1)		1 (1)				4 (4)		9 (7)
地域連携推進本部		1 (0)	2 (1)		3 (1)								6 (2)
情報連携推進本部		1 (0)											1 (0)
男女共同参画推進室					1 (1)								1 (1)
合計	7 (2)	249 (25)	218 (44)	36 (3)	203 (59)	1 (1)	104 (28)	56 (17)	364 (164)	103 (47)	1,127 (822)	2 (1)	2,470 (1,213)

※( )内は女性の人数を内数で示す。特任教員は常勤のみ。

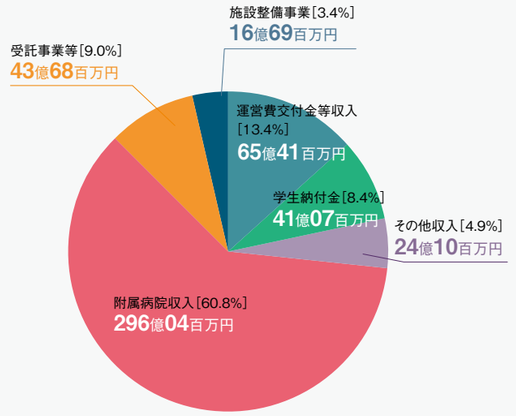
構成比率



■ 予　算

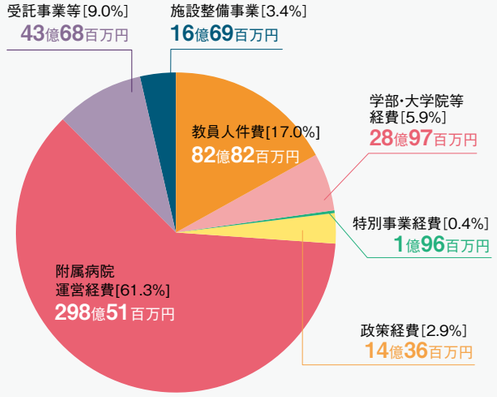
2025年度　予算事項別の構成

【収　　入】



総額486億99百万円

【支　　出】



総額486億99百万円

■ 寄附金

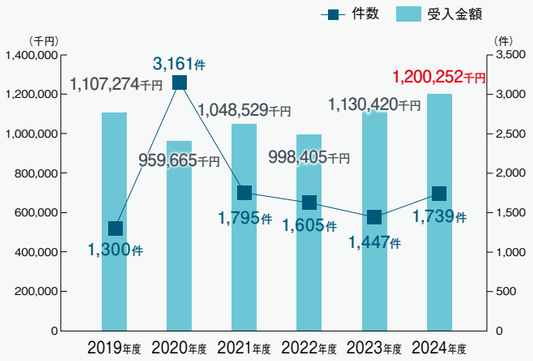
2024年度　受入実績

（単位：千円）

区　分	件　数	金　額
岐阜大学基金	978	151,449
教育学部	30	17,566
教育学部附属小中学校	4	23,720
地域科学部	7	1,310
医学部	216	602,457
医学部附属病院	88	42,296
工学部	180	160,871
応用生物科学部	165	85,672
社会システム経営学環	9	19,142
連合農学研究科	1	350
連合創薬医療情報研究科	11	20,144
高等研究院	27	39,673
航空宇宙生産技術開発センター	2	1,000
糖鎖生命コア研究所	7	10,550
図書館	5	116
教育機構・学生支援機構	5	3,190
日本語・日本文化教育センター	1	300
学術研究・産学官連携推進本部	1	20,000
情報連携統括本部	1	300
地域協学センター	1	140
合計	1,739	1,200,252

千円未満は切り捨てとし，医学部には寄附講座分　441,500 千円を含む。

※金額は，単位未満切り捨てのため合計は必ずしも一致しません。

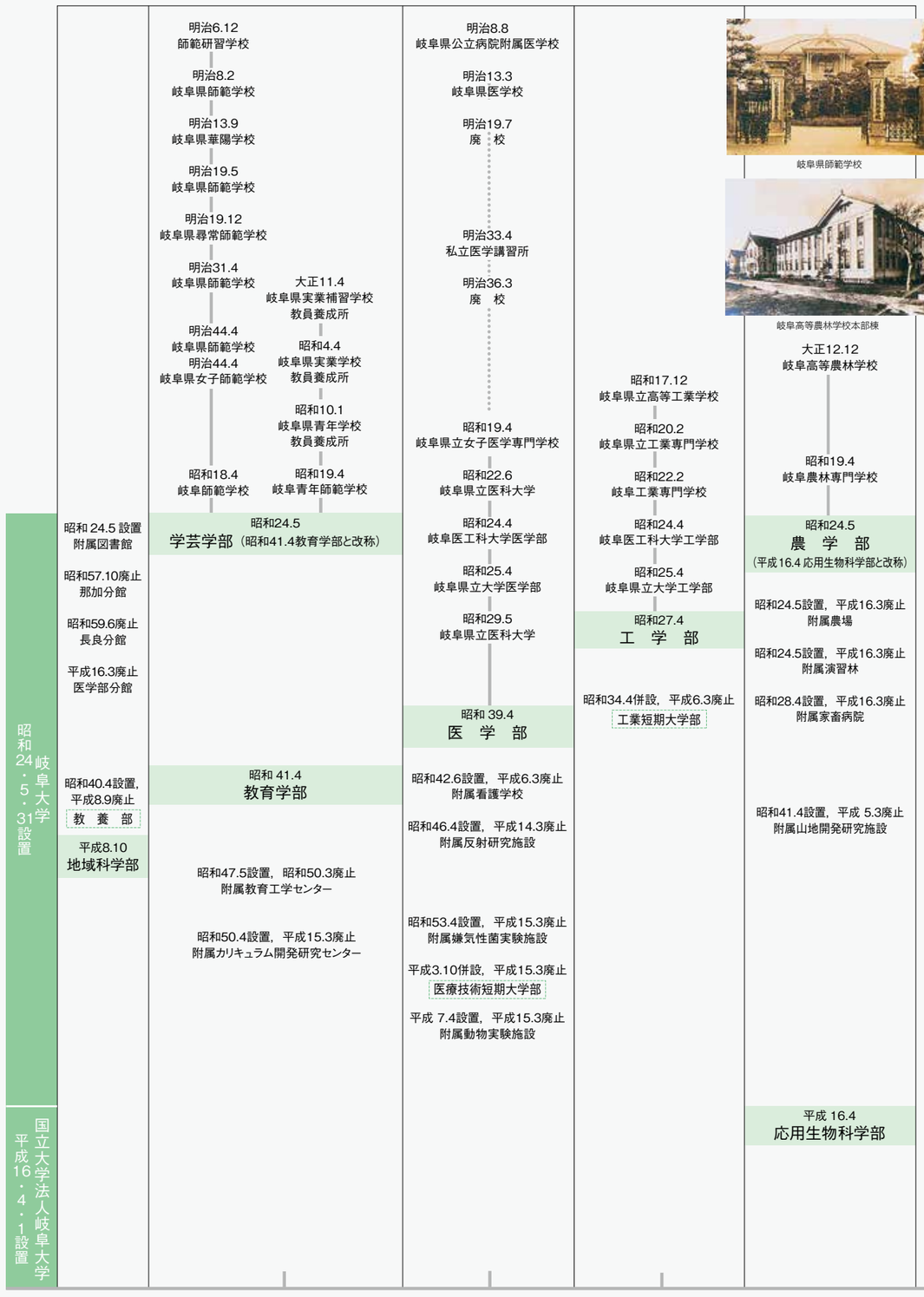


2020 年度の寄付件数の増加は，新型コロナウイルス感染症緊急学生支援事業にかかる特定基金を募ったことに起因する。

沿　革

岐阜県師範学校

岐阜高等農林学校本部棟



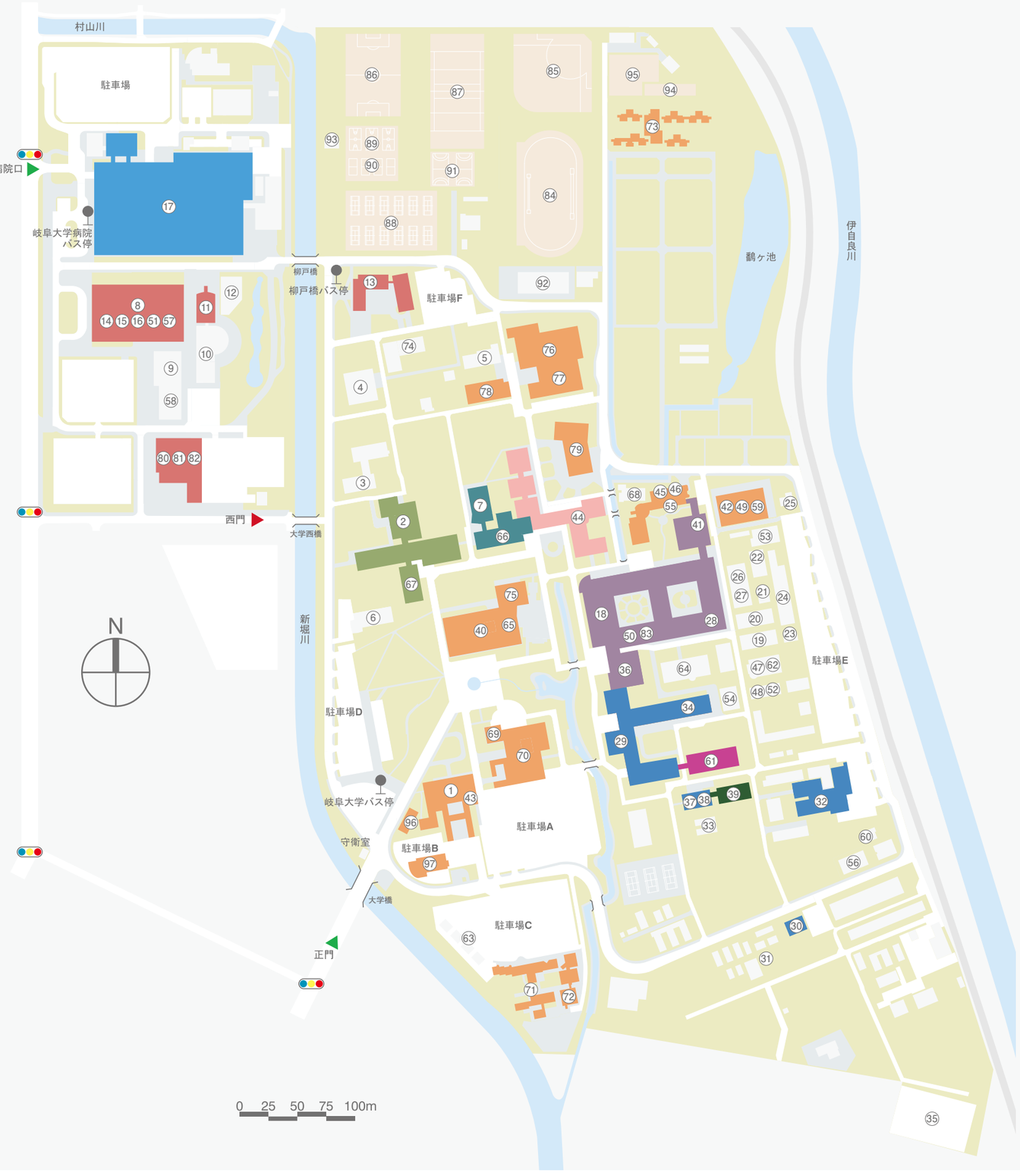
歴代学長

初　　代	青木文一郎	昭和24年５月31日	～	昭和29年７月１日
事務取扱	高橋　悌蔵	昭和29年７月１日	～	昭和30年５月31日
第　２　代	吉井　義次	昭和30年６月１日	～	昭和36年５月31日
第　３　代	四方　　博	昭和36年６月１日	～	昭和42年５月31日
第　４　代	今西　錦司	昭和42年６月１日	～	昭和48年５月31日
第　５　代	林　　金雄	昭和48年６月１日	～	昭和52年５月31日
第　６　代	館　　正知	昭和52年６月１日	～	昭和58年５月31日
第　７　代	早野　三郎	昭和58年６月１日	～	平成元年５月31日
第　８　代	加藤　　晃	平成元年６月１日	～	平成７年５月31日
第　９　代	金城　俊夫	平成７年６月１日	～	平成13年５月31日
第１０代	黒木登志夫	平成13年６月１日	～	平成20年３月31日
第１１代	森　　秀樹	平成20年４月１日	～	平成26年３月31日
第１２代	森脇　久隆	平成26年４月１日	～	令和４年３月31日
第１３代	吉田　和弘	令和４年４月１日	～	

建物配置図

2025年5月1日現在

1	大学本部
2	教育学部
3	美術・技術棟
4	音楽棟
5	保健体育棟
6	附属特別支援教育センター
7	地域科学部
8	医学系研究科・医学部
9	医学部生命科学棟
10	医学部教育・福利棟
11	医学部記念会館
12	医学図書館
13	医学部看護学科
14	医学教育開発研究センター
15	附属地域医療医学センター
16	附属量子医学イノベーションリサーチセンター
17	医学部附属病院
18	工学部
19	機械系第１実験棟
20	機械系第２実験棟
21	機械系第３実験棟
22	化学実験・実習施設棟
23	防災工学実験棟
24	土木系実験棟
25	高電圧実験棟
26	機械工場
27	ものづくり技術教育支援センター
28	附属インフラマネジメント技術研究センター
29	応用生物科学部
30	農場管理棟
31	附属岐阜フィールド科学教育研究センター
32	附属動物病院
33	附属野生動物管理学研究センター
34	附属共同獣医学教育開発推進センター
35	附属家畜衛生地域連携教育研究センター
36	社会システム経営学環
37	大学院連合農学研究科
38	大学院連合獣医学研究科
39	糖鎖生命コア研究所
40	図書館
41	総合研究棟Ⅰ
42	総合研究棟Ⅱ
43	教育推進・学生支援機構
44	全学共通教育講義棟
45	学術研究・産学官連携推進本部
46	高等研究院
47	地方創生エネルギーシステム研究センター
48	地域連携スマート金型技術研究センター
49	Gu コンポジット研究センター
50	地域減災研究センター
51	微生物遺伝資源保存センター
52	スマート金型開発拠点棟
53	航空宇宙生産技術開発センター
54	環境社会共生体研究センター
55	One Medicine トランスレーショナルリサーチセンター
56	科学研究基盤センター（ゲノム研究分野）
57	科学研究基盤センター（嫌気性菌研究分野）
58	科学研究基盤センター（動物実験分野）
59	科学研究基盤センター（機器分析分野）
60	科学研究基盤センター（RI 実験分野）
61	岐阜県食品科学研究所（３階岐阜大学産学連携活動エリア）
62	研究ラボ（研究推進部）
63	インフラミュージアム
64	情報連携推進本部（情報館）
65	グローカル推進機構
66	日本語・日本文化教育センター
67	教育学部附属学習協創開発研究センター
68	地域連携推進本部（地域協学センター）
69	保健管理センター
70	大学会館
71	国際交流会館
72	柳戸会館
73	黒野寮
74	保育園ほほえみ
75	講堂
76	体育館
77	武道館
78	第二体育館
79	第二食堂
80	岐阜薬科大学校舎
81	岐阜健康長寿・創薬推進機構（7 階）
82	大学院連合創薬医療情報研究科（8 階）
83	清流の国ぎふ防災・減災センター
84	陸上競技場
85	野球場
86	サッカー場
87	ラグビー場
88	テニスコート
89	バスケットボールコート
90	バレーボールコート
91	ハンドボールコート
92	プール
93	弓道場
94	アーチェリー場
95	馬場
96	コンビニエンスストア
97	OKB 岐阜大学プラザ

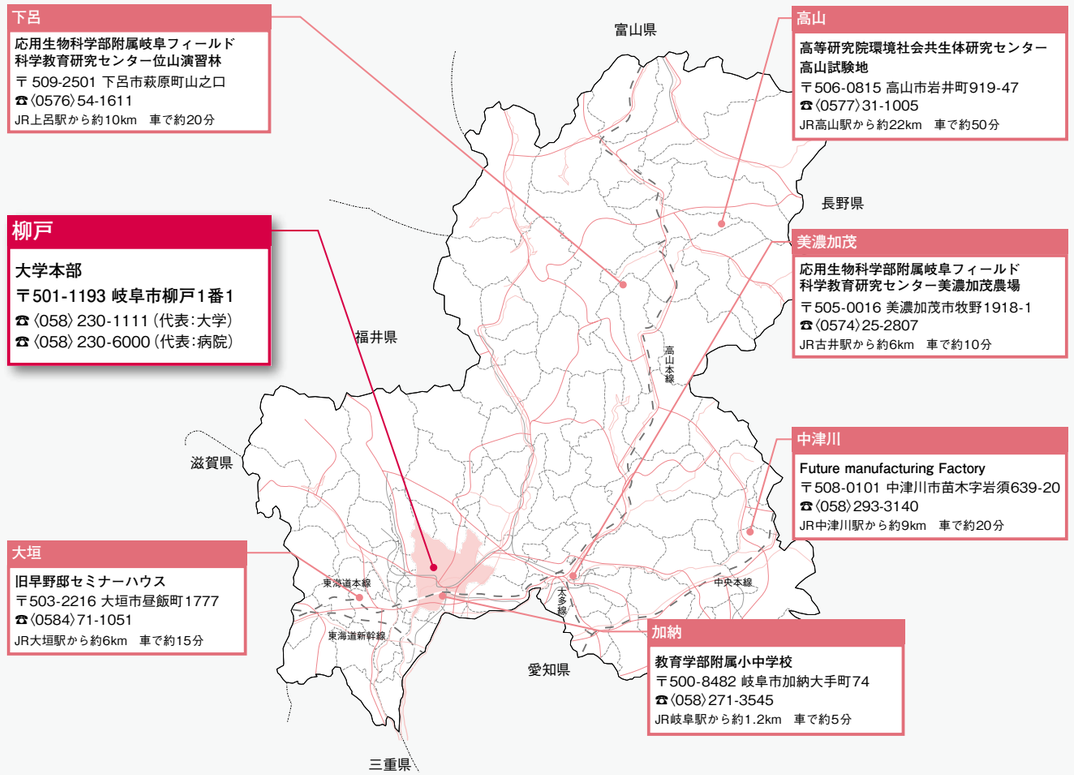


■ 土地・建物

2025年5月1日現在　単位：m²

地区	区分	土地 所有	土地 借用	建物 所有	建物 借用
柳戸（本部地区）	大学本部	520,827		3,925	
	教育学部 / 連合学校教育学研究科			17,832	
	地域科学部			7,130	
	社会システム経営学環			657	
	工学部			48,848	
	応用生物科学部 / 共同獣医学科			28,930	
	医学部看護学科			7,060	
	連農学研究科			612	
	自然科学技術研究科			884	
	糖鎖生命コア研究所			4,324	
	学術研究・産学官連携推進本部 / 高等研究院			11,245	
	地域連携推進本部			613	
	グローカル推進機構			926	
	全学共通教育講義棟			7,178	
	図書館・講堂			8,544	
	大学会館・食堂・柳戸会館			6,193	
	体育・課外活動施設			6,011	
	動物病院			3,708	
	保育園			640	
	本部管理施設			10,198	
	黒野寮			5,043	
	国際交流会館			4,073	
	岐阜県中央家畜保健衛生所				819
	岐阜県食品科学研究所				826
柳戸（病院地区）	医学系研究科・医学部 / 附属病院	124,336		116,562	
	大学院連合創薬医療情報研究科（岐阜県健康長寿・創薬推進機構）				1,305
	病院地区駐車場		11,421		
	小　計	645,163	11,421	301,136	2,950
加納	教育学部附属小中学校	30,599		13,348	
大垣	旧早野邸セミナーハウス	5,539		249	
美濃加茂	応用生物科学部附属岐阜フィールド科学教育研究センター 美濃加茂農場	95,832	18	1,446	
中津川	Future manufacturing Factory		23,752	2,229	
下呂	応用生物科学部附属岐阜フィールド科学教育研究センター 位山演習林	5,536,478	2,460	1,105	
高山	高等研究院環境社会共生体研究センター　高山試験地		207,697	806	
その他	職員宿舎	18,230		8,681	
	合　計	6,331,841	245,348	329,000	2,950

■ 所在地



下呂
応用生物科学部附属岐阜フィールド科学教育研究センター位山演習林
〒509-2501 下呂市萩原町山之口
☎〈0576〉54-1611
JR上呂駅から約10km　車で約20分

柳戸
大学本部
〒501-1193 岐阜市柳戸1番1
☎〈058〉230-1111（代表：大学）
☎〈058〉230-6000（代表：病院）

大垣
旧早野邸セミナーハウス
〒503-2216 大垣市昼飯町1777
☎〈0584〉71-1051
JR大垣駅から約6km　車で約15分

高山
高等研究院環境社会共生体研究センター 高山試験地
〒506-0815 高山市岩井町919-47
☎〈0577〉31-1005
JR高山駅から約22km　車で約50分

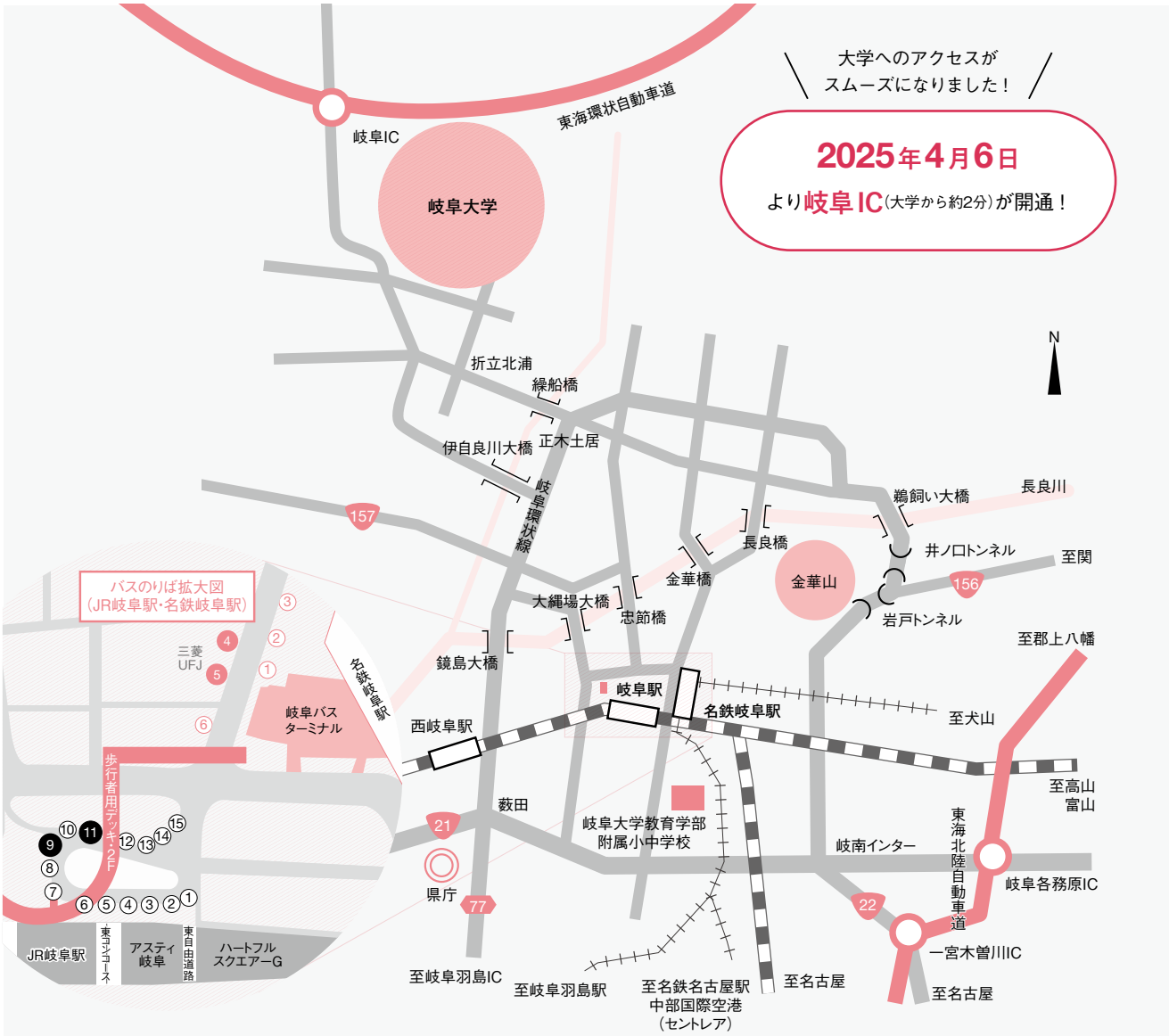
美濃加茂
応用生物科学部附属岐阜フィールド科学教育研究センター美濃加茂農場
〒505-0016 美濃加茂市牧野1918-1
☎〈0574〉25-2807
JR古井駅から約6km　車で約10分

中津川
Future manufacturing Factory
〒508-0101 中津川市苗木字岩須639-20
☎〈058〉293-3140
JR中津川駅から約9km　車で約20分

加納
教育学部附属小中学校
〒500-8482 岐阜市加納大手町74
☎〈058〉271-3545
JR岐阜駅から約1.2km　車で約5分

部局・施設等	電話番号	
大学本部	〈058〉	230-1111（代表）
教育学部 / 教育学研究科		293-2203
・附属特別支援教育センター		293-2350
・附属学習協創開発研究センター		293-2345
地域科学部 / 地域科学研究科		293-3002
工学部 / 工学研究科		293-2365
・附属インフラマネジメント技術研究センター		293-2419
・附属応用気象研究センター		293-2365
・附属プラズマ応用研究センター		293-2365
・附属宇宙研究利用推進センター		293-2365
・ものづくり技術教育支援センター		293-2374
応用生物科学部		293-2834
・附属岐阜フィールド科学教育研究センター		293-2972
・附属動物病院		293-2962
・附属野生動物管理学研究センター		293-2959
・附属共同獣医学教育開発推進センター		293-3408
・附属家畜衛生地域連携教育研究センター		293-2834
社会システム経営学環		293-3440
自然科学技術研究科		293-3084
共同獣医学研究科		293-2987
連合農学研究科		293-2984
糖鎖生命コア研究所		293-3753
・糖鎖分子科学研究センター		
図　書　館		293-2184

部局・施設等	電話番号	
地域連携推進本部（地域協学センター）	〈058〉	293-3880
グローカル推進機構		293-3351
・日本語・日本文化教育センター		
保健管理センター		293-2174
教育推進・学生支援機構		293-2133
学術研究・産学官連携推進本部		293-3339
高等研究院		293-3352
・地域減災研究センター		293-3890
・微生物遺伝資源保存センター		230-6146
・Gu コンポジット研究センター		293-3184
・地域連携スマート金型技術研究センター		293-2496
・地方創生エネルギーシステム研究センター		293-2685
・One Medicine トランスレーショナルリサーチセンター		293-3181
・航空宇宙生産技術開発センター		293-3714
・環境社会共生体研究センター		293-2061
医学部 / 医学系研究科		230-6053
医学部附属病院		230-6000（代表）
・医学教育開発研究センター（医学教育共同利用拠点）		230-6470
・附属地域医療医学センター		230-6539
・附属量子医学イノベーションリサーチセンター		230-6437
連合創薬医療情報研究科		230-7602
OKB 岐阜大学プラザ		293-3770



バスのりば案内

JR 岐阜駅北口・バスターミナルのりば				
のりば	路線名	系統	行先	所要時間
JR 岐阜 -9	岐阜大学・病院線	C70	岐阜大学病院	約30分
JR 岐阜 -9	岐阜大学・病院線	C71	岐阜大学病院	清流ライナー 約25分
JR 岐阜 -9	岐阜大学・病院線	C72	岐阜大学病院	直行 約25分
JR 岐阜 -9	岐阜大学・病院線	C72	岐阜大学	直行 約30分
JR 岐阜 -11	岐南町線（長良橋経由）	N37	岐阜大学病院	約35分

名鉄岐阜のりば				
のりば	路線名	系統	行先	所要時間
名鉄岐阜 -5	岐阜大学・病院線	C70	岐阜大学病院	約30分
名鉄岐阜 -4	岐南町線（長良橋経由）	N37	岐阜大学病院	約35分

- バスはすべて「岐阜大学」に停車。バス系統 C は，忠節橋経由
- 直行便は，学休日，土・日曜日運休
- 清流ライナーは，岐阜大学まで３つの停留所のみ停車する 130 名乗車可能の連節バス

岐阜大学へのアクセス

自家用車

【東海環状自動車道】
・岐阜 IC から約２分（約１km）
【名神高速】
◦一宮 IC から国道22号を北進し，岐阜市街経由で，約50分（約25km）
【東海北陸自動車道】
◦岐阜各務原 IC から国道21号を西進し，岐阜環状線経由で，約40分（約20km）

バス・タクシー

【JR岐阜駅／名鉄岐阜駅から】
◦岐阜大学まで約７km，バスで約30分，タクシーで約20分

鉄道

【JR名古屋駅／名鉄名古屋駅／近鉄名古屋駅から】
◦JR岐阜駅まで，東海道本線（新快速）で約20分
◦名鉄岐阜駅まで，名鉄名古屋本線（特急）で約30分
【岐阜羽島駅（新幹線）から】
◦新羽島駅（岐阜羽島駅隣り）から名鉄岐阜駅まで，約30分
◦タクシー利用の場合は，岐阜大学まで約40分
【中部国際空港から】
◦名鉄岐阜駅まで，名鉄（空港特急・ミュースカイ）で約60分

MAKE NEW STANDARDS.
東海国立大学機構
岐阜大学
［編集］国立大学法人東海国立大学機構総務部広報課
〒501-1193 岐阜県岐阜市柳戸１番１
TEL. 058-230-1111（代表）058-293-2009
FAX. 058-293-2021
https://www.gifu-u.ac.jp/